

(様式第 10)

福大病庶 78 号
令和 2 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

学校法人福岡大学
理事長 貴 正 義

福岡大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 8 1 4 - 0 1 8 0 福岡市城南区七隈八丁目 1 9 番 1 号
氏 名	学校法人 福岡大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

福岡大学病院

3 所在の場所

〒 8 1 4 - 0 1 8 0 福岡市城南区七隈七丁目 4 5 番 1 号	電話(0 9 2) 8 0 1 - 1 0 1 1
--	-----------------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<p>① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜</p> <p>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p>

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
①呼吸器内科 ②消化器内科 ③循環器内科 4腎臓内科	
⑤神経内科 6血液内科 7内分泌内科 8代謝内科	
9感染症内科 ⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科 ⑪リウマチ科	
診療実績	
腎臓内科、血液内科、内分泌内科、感染症内科は内科として標榜している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 2消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績 消化器外科、乳腺外科、心臓外科、血管外科、内分泌外科は外科として標榜している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1リハビリテーション科 2病理診断科 3形成外科 4美容外科 5こう門科 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
60床	床	床	床	855床	915床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	543人	49人	550人	看護補助者	66人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	15人	4人	15.2人	理学療法士	23人	臨床検査技師	72人
薬 剤 師	70人	2人	71人	作業療法士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	5人	その他	0人
助 産 師	55人	0人	55人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	909人	11人	909.7人	臨床工学士	14人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	45人
歯科衛生士	2人	3人	4.7人	歯科技工士	1人	事務職員	173人
管理栄養士	12人	2人	13.8人	診療放射線技師	50人	その他の職員	22人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	44人	眼 科 専 門 医	8人
外 科 専 門 医	41人	耳鼻咽喉科専門医	8人
精神科専門医	7人	放射線科専門医	9人
小児科専門医	20人	脳神経外科専門医	14人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	19人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	12人
産婦人科専門医	14人	救急科専門医	11人
		合 計	220人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (岩 崎 昭 憲) 任命年月日 令和元年 12月 1日

2018.9.17 医療安全管理者取得 (認定番号 180917183)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	723.5人	5.8人	729.3人
1日当たり平均外来患者数	1400.8人	55.0人	1455.8人
1日当たり平均調剤数	1197.8剤		
必要医師数	161人		
必要歯科医師数	4人		
必要薬剤師数	25人		
必要(准)看護師数	414人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	358.49 m ²	鉄筋コン クリート	病床数	10床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 12.80m ² [移動式の場合] 台数 5台		病床数	1床		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 16.80m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	307.80m ²	同上	(主な設備) 生化学自動分析装置、全自動化学発光免疫測定装置			
細菌検査室	109.90m ²	同上	(主な設備) 自動血液培養・抗酸菌培養装置、嫌気チャンバー、細胞同定・感受性検査装置			
病理検査室	204.23m ²	同上	(主な設備) 電動マイクロトーム、自動包埋脱水装置、凍結切片作成機クリオスタット、自動染色装置、遺伝子解析装置			
病理解剖室	132.80m ²	同上	(主な設備) 解剖台、カラー臓器撮影装置、骨切装置			
研 究 室	5449.16m ²	同上	(主な設備) 超小型カラーテレビ 他			
講 義 室	372.90m ²	同上	室数	2室	収容定員	400人
図 書 室	2246.16m ²	同上	室数	3室	蔵書数	135,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	88.1%	逆紹介率	62.1%
算出根拠	A: 紹介患者の数		17,825人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		14,330人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,482人
	D: 初診の患者の数		23,063人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
古賀和徳	産業医科大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
深川直美	産業医科大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
一木孝治	産業医科大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	1
坪井義夫	福岡大学病院		院内監査委員	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有 <input checked="" type="radio"/> 無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 無
公表の方法 病院ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	34
2	筋萎縮性側索硬化症	10	57	特発性拡張型心筋症	29
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	7
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	18	60	再生不良性貧血	9
6	パーキンソン病	331	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	12	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	
8	ハンテントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	31
9	神経有棘赤血球症	1	64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	78	66	IgA腎症	27
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	12
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	47	68	黄色靱帯骨化症	4
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	7	69	後縦靱帯骨化症	44
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	6
16	クロー・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	55
17	多系統萎縮症	42	72	下垂体性ADH分泌異常症	6
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	43	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病	18	74	下垂体性PRL分泌亢進症	4
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	
21	ミトコンドリア病	2	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	5
22	もやもや病	45	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	16
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	68
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	20	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	6
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	7	83	アジソン病	
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	40
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	66
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	7
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンペル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	34	89	リンパ脈管筋腫症	12
35	天疱瘡	6	90	網膜色素変性症	14
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	16	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	52
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	3
40	高安動脈炎	12	95	自己免疫性肝炎	12
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	149
42	結節性多発動脈炎	6	97	潰瘍性大腸炎	178
43	顕微鏡的多発血管炎	14	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	3	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	9	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャール病	3	102	ルピンシュタイン・ティビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	GFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	113	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	45	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	34	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	17	107	若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	12	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	4	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
113	筋ジストロフィー	6	163	特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	3
118	脊髄腫瘍		168	エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリテン症		171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群	1	176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉萎縮症	4	177	ジュベール症候群関連疾患	
128	ピッカー・スタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1	198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マジニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	3	208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
259	左心低形成症候群	259	レンチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
260	三尖弁閉鎖症	260	システロール血症	
261	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	261	タンジール病	
262	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	262	原発性高カイロミクロン血症	
263	ファロー四徴症	263	脳髄黄色腫症	
264	両大血管右室起始症	264	無βリポタンパク血症	
265	エプスタイン病	265	脂肪萎縮症	1
266	アルポート症候群	266	家族性地中海熱	
267	ギャロウェイ・モフト症候群	267	高IgD症候群	
268	急速進行性糸球体腎炎	268	中條・西村症候群	
269	抗糸球体基底膜腎炎	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
270	一次性ネフローゼ症候群	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
271	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	271	強直性脊椎炎	1
272	紫斑病性腎炎	272	進行性骨化性線維異形成症	
273	先天性腎性尿崩症	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
274	間質性膀胱炎(ハンナ型)	274	骨形成不全症	
275	オスラー病	275	タナトフォリック骨異形成症	
276	閉塞性細気管支炎	276	軟骨無形成症	
277	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	277	リンパ管腫症/ゴーム病	
278	肺胞低換気症候群	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
279	α1-アンチトリプシン欠乏症	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	5
280	カーニー複合	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
281	ウォルフラム症候群	281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	6
282	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	282	先天性赤血球形成異常性貧血	
283	副甲状腺機能低下症	283	後天性赤芽球癆	1
284	偽性副甲状腺機能低下症	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
285	副腎皮質刺激ホルモン不応症	285	ファンコニ貧血	
286	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
287	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	287	エプスタイン症候群	
288	フェニルケトン尿症	288	自己免疫性出血病XIII	
289	高チロシン血症1型	289	クロンカイト・カナダ症候群	
290	高チロシン血症2型	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
291	高チロシン血症3型	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
292	メープルシロップ尿症	292	総排泄腔外反症	
293	プロピオン酸血症	293	総排泄腔遺残	
294	メチルマロン酸血症	294	先天性横隔膜ヘルニア	
295	イソ吉草酸血症	295	乳幼児肝巨大血管腫	
296	グルコーストランスポーター1欠損症	296	胆道閉鎖症	
297	グルタル酸血症1型	297	アラジール症候群	
298	グルタル酸血症2型	298	遺伝性膀胱炎	
299	尿素サイクル異常症	299	嚢胞性線維症	1
300	リジン尿性蛋白不耐症	300	IgG4関連疾患	1
301	先天性葉酸吸収不全	301	黄斑ジストロフィー	
302	ボルフィリン症	302	レーベル遺伝性視神経症	
303	複合カルボキシラーゼ欠損症	303	アッシャー症候群	
304	筋型糖原病	304	若年発症型両側性感音難聴	
305	肝型糖原病	305	遅発性内リンパ水腫	
306	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	306	好酸球性副鼻腔炎	7

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病		319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん	1	321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	3
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
オンライン診療料	総合評価加算
特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1 入院基本料)	後発医薬品使用体制加算1
特定機能病院入院基本料(精神病棟13対1 入院基本料)	病棟薬剤業務実施加算1
臨床研修病院入院診療加算	病棟薬剤業務実施加算2
救急医療管理加算	データ提出加算2
超急性期脳卒中加算	入退院支援加算1、3(地域連携診療計画加算、入院時支援加算、総合機能評価加算)
妊産婦緊急搬送入院加算	認知症ケア加算1
診療録管理体制加算1	せん妄ハイリスク患者ケア加算
医師事務作業補助体制加算(40対1)	精神科疾患診療体制加算
急性期看護補助体制加算(25対1(5割以上))	精神科急性期医師配置加算
看護職員夜間12対1配置加算1	地域医療体制確保加算
看護補助加算2(50対1)	救命救急入院料1(救急体制充実加算2、小児加算)【救命救急センターBユニット】
療養環境加算	救命救急入院料4(救急体制充実加算2、小児加算)【救命救急センターAユニット】
重症者等療養環境特別加算	特定集中治療室管理料1【SICU】
無菌治療室管理加算2	特定集中治療室管理料3(早期離床・リハビリテーション加算)【CCU】
緩和ケア診療加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料【SCU】
精神科身体合併症管理加算	総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料)【MFICU】
精神科リエゾンチーム加算	総合周産期特定集中治療室管理料(新生児集中治療室管理料)【NICU】
がん診療連携拠点病院加算	新生児治療回復室入院医療管理料【GCU】
栄養サポートチーム加算	小児入院医療管理料1(注2プレイルーム加算)【本館3階南】
医療安全対策加算1	小児入院医療管理料1(注2プレイルーム加算)【新館5階小児医療センター】
感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算、抗菌薬適正使用支援加算)	排尿自立支援加算
患者サポート体制充実加算	・
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
ハイリスク妊娠管理加算	・
ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
外来栄養食事指導料 注2	薬剤管理指導料
植込型除細動器移行期加算(※心臓ペースメーカー指導管理料の加算)	医療機器安全管理料1
遠隔モニタリング加算(※注5 心臓ペースメーカー指導管理料の加算)	医療機器安全管理料2
高度難聴指導管理料	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物住居者訪問看護・指導料
糖尿病合併症管理料	在宅血液透析指導管理料
がん性疼痛緩和指導管理料	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
がん患者指導料イ	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
がん患者指導料ロ	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
がん患者指導料ハ	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
がん患者指導料ニ	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
外来緩和ケア管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	骨髄微小残存病変量測定
糖尿病透析予防指導管理料	造血器腫瘍遺伝子検査
小児運動器疾患指導管理料	遺伝学的検査
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	BRCA1/2遺伝子検査
腎代替療法指導管理料	がんゲノムプロファイリング検査
外来放射線照射診療料	先天性代謝異常症検査
ニコチン依存症管理料	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
ハイリスク妊産婦連携指導料1	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
ハイリスク妊産婦連携指導料2	検体検査管理加算(IV)
がん治療連携計画策定料	国際標準検査管理加算
がん治療連携管理料	遺伝カウンセリング加算
認知症専門診断管理料	遺伝性腫瘍カウンセリング加算
肝炎インターフェロン治療計画料	植込型心電図検査
外来排尿自立指導料	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
胎児心エコー法	大腸CT撮影加算
ヘッドアップティルト試験	画像診断管理加算3
人工臓器検査、人工臓器療法	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
長期継続頭蓋内脳波検査	無菌製剤処理料
長期脳波ビデオ同時記録検査1	外来化学療法加算1
終夜睡眠ポリグラフィ(1及び2以外の場合 安全精度管理下で行うもの)	連携充実加算
脳波検査判断料1	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
単線維筋電図	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
神経学的検査	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
補聴器適合検査	運動器リハビリテーション料(Ⅱ)【同基準Ⅰの届出をもって代えることができる】
ロービジョン検査判断料	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
コンタクトレンズ検査料1	摂食機能療法 注3摂食嚥下支援加算
小児食物アレルギー負荷検査	がん患者リハビリテーション料(Ⅰ)
内服・点滴誘発試験	リンパ浮腫複合的治療料
CT透視下気管支鏡検査加算	救急患者精神科継続支援料
経気管支凍結生検法	認知療法・認知行動療法1
ポジトロン断層撮影	精神科作業療法
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	精神科ショート・ケア「大規模なもの」
冠動脈CT撮影加算	精神科デイ・ケア「大規模なもの」
外傷全身CT加算	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料)
心臓MRI撮影加算	医療保護入院等診療料
CT撮影及びMRI撮影	エタノールの局所注入(副甲状腺)
血流予備量比コンピューター断層撮影	人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
乳房MRI撮影加算	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
小児鎮静下MRI撮影加算	導入期加算2及び腎代替療法実績加算
頭部MRI撮影加算	一酸化窒素吸入療法

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
センチネルリンパ節加算	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
組織拡張器による再建術(乳房(再建時手術)の場合に限る。)	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
椎間板内酵素注入療法	同種死体肺移植術
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)	生体部分肺移植術
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	内視鏡下筋層切開術
角膜移植術・内皮移植加算	経皮的冠動脈形成術
羊膜移植術(学会認定施設書の提出の必要性)	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	経皮的冠動脈ステント留置術
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	胸腔鏡下弁形成術
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	胸腔鏡下弁置換術
網膜再建術	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
人工中耳植込術	経皮的中隔心筋焼灼術
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術

鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術
乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いる場合)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いる場合)
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
経皮的動脈遮断術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
経皮的下肢動脈形成術	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
ダメージコントロール手術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	胎児輸血術
腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	輸血管理料(Ⅱ)
腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	貯血式自己輸血管理体制加算(※輸血管理料の加算)
腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	自己クリオプレシピレート作製術(用手法)
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	同種クリオプレシピレート作製術
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
体外衝撃波胆石破碎術	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
腹腔鏡下肝切除術	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
体外衝撃波膵石破碎術	麻酔管理料(Ⅰ)
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	麻酔管理料(Ⅱ)
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	放射線治療専任加算
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	外来放射線治療加算
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	体外照射呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	高エネルギー放射線治療
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	1回線量増加加算(全乳房照射・前立腺照射)
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	強度変調放射線治療(IMRT)
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	画像誘導放射線治療(IGRT)
同種死体腎移植術	定位放射線治療
生体腎移植術	定位放射線治療呼吸性移動対策加算(その他)
膀胱水圧拡張術	病理診断管理加算(2)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	悪性腫瘍病理組織標本加算

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
次世代型HDL模倣ペプチドの多機能性と安全性の検証	朔 啓二郎	循環器内科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
心臓リハビリテーションと心肺運動負荷検査(CPX)による心血管疾患の予後予測	北島 研	循環器内科	910,000	補 委	日本学術振興会
ナノバブル化アポA-II模倣ペプチドと超音波による新規動脈硬化治療法の開発	今泉 聡	循環器内科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
新規動脈硬化診断指標:LC-MS/MSインプロスタン分析法の臨床的意義の確立	瀬川 波子	循環器内科	910,000	補 委	日本学術振興会
妊娠高血圧症候群重症化予防に向けた血圧変動性の評価と生活習慣指標の作成	椎葉 美千代	循環器内科	780,000	補 委	日本学術振興会
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」新規内視鏡診断法の確立・診断基準確立	平井郁仁	消化器内科	500,000	補 委	厚生労働省
口腔内歯周病菌が腸管免疫・腸内細菌へ与える影響と炎症性腸疾患への関連性の解明	竹田津英稔	消化器内科 内視鏡部	1,100,000	補 委	日本学術振興会
薬剤性肝障害の臨床試料収集と関連解析	向坂彰太郎	消化器内科	1,375,000	補 委	木原財団
成人T細胞性白血病/リンパ腫の消化管病変における臨床病理学的検討	石橋英樹	消化器内科	500,000	補 委	臨床研究奨励基金
肺線維症患者の真菌マイクrobiオーム解析と真菌が上皮間葉転換に与える影響の検討	串間 尚子 (研究代表者)	呼吸器内科	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
一般住民における睡眠負債と睡眠時無呼吸症候群が心血管病とCKDに及ぼす影響	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
口腔内および腸内細菌叢と冠動脈石灰化との関連を解明する疫学研究	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	50,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
一般住民における夜間頻尿の包括的病態解明	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	400,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
心房細動患者の至適降圧レベルを検討する無作為化比較試験	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	100,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

小計14

病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に関する腸内菌叢異常を解明する	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	50,000	補 委	独立行政法人 日本 学術振興会
衝動性制御不全マウスモデルの行動および脳内モノアミン動態解析	川崎 弘詔	精神神経科	2,200,000	補 委	文部科学省
自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業	衛藤 暢明	精神神経科	1,128,000	補 委	厚生労働省
iPS細胞由来オータプス培養標本によるシナプス機能評価法開発	廣瀬 伸一	小児科	4,600,000	補 委	日本私立学校振興・ 共済事業団
小児てんかん性脳症の革新的創薬を見据えた病態解析	廣瀬 伸一	小児科	16,690,910	補 委	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
真に個別患者の診療に役立つ領域横断的に高い拡張性を有する変異・多型情報データベースの創成	廣瀬 伸一(分担)	小児科	500,000	補 委	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
希少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究	廣瀬 伸一(分担)	小児科	300,000	補 委	厚生労働省
遺伝学的アプローチによりドラベ症候群の分子ネットワークを明らかにする	石井 敦士	小児科	1,700,000	補 委	日本学術振興会
良質なエビデンスに基づく急性脳症の診療に向けた体制整備	石井 敦士(分担)	小児科	300,000	補 委	厚生労働省
経静脈的にゲノム編集技術を用いたドラベ症候群の遺伝子治療の開発	石井 敦士	小児科	500,000	補 委	公益財団法人 臨床 研究奨励基金
KCNQ2変異マウスを用い、BFNEとEIEEの病態解明に挑む	井原 由紀子	小児科	2,200,000	補 委	日本学術振興会
バイオマーカーを用いた川崎病急性期治療法選択に関する研究	吉兼 由佳子 (分担)	小児科	200,000	補 委	国立研究開発法人日本 医療研究開発機構
呼吸器外科におけるビタミンB2に特化した蛍光ナビゲーションシステムの開発・検証	早稲田 龍一	呼吸器・乳腺内分泌・ 小児外科	2,600,000	補 委	日本学術振興会
特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模他施設研究	代表者:菅野信彦 分担者:山本卓明	整形外科	100,000	補 委	厚生労働省
関節内脆弱性骨折による関節破壊のメカニズムの解明	山本卓明	整形外科	4,160,000	補 委	文部科学省・日本学 術振興会
頸椎前方手術における反回神経麻痺の発生機序に関する電気生理学的検討	田中潤	整形外科	500,000	補 委	公益財団法人 臨床 研究奨励基金

小計16

肥厚性癬痕、ケロイドへ継続発展する慢性感染の分子基盤解明	大慈弥裕之	形成外科	800,000	補 委	文部科学省
直径1mmの血管吻合を容易にする顕微鏡下手術支援ロボットシステムの研究開発	大慈弥裕之	形成外科	1,500,000	補 委	文部科学省
美容医療における合併症の実態調査と診療指針の作成	大慈弥裕之	形成外科	6,195,000	補 委	厚生労働省
難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	秋田 定伯	形成外科	20,020,000	補 委	厚生労働省
上肢に対する単関節型 Hybrid Assitive Limb (HAL) の医師主導治験	井上 亨	脳神経外科	6,360,900	補 委	厚生労働省
パーキンソン病重症度を示す生体指標の確立による脳深部刺激条件最適化方法開発	森下登史	脳神経外科	1,170,000	補 委	文部科学省
神経皮膚症候群に関する診療科横断的検討による科学的根拠に基づいた診療指針の確立	今福 信一	皮膚科	800,000	補 委	厚生労働省
薬事申請をめざした治療法のない神経線維腫症1型の皮膚腫瘍に対する有効で安全な局所大量投与療法薬開発のための医師主導治験	今福 信一	皮膚科	3,744,000	補 委	日本医療研究開発機構 (AMED)
副甲状腺ホルモンファミリーメンバーとホスホジエステラーゼ阻害剤を用いた肥満治療の研究	佐藤 絵美	皮膚科	500,000	補 委	公益財団法人臨床研究奨励基金
PTH2受容体シグナルの免疫細胞における役割	佐藤 絵美	皮膚科	2,000,000	補 委	公益財団法人上原記念生命科学財団
一般住民における夜間頻尿の包括的病態解明	中村 信之	腎泌尿器外科	4,290,000	補 委	文部科学省
ウルトラファインパブルによるDDSを活用した難治性卵巣癌に対する核酸医薬の開発	宮本 新吾	産婦人科	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費
膣マイクロバイオームプロファイリングによる早産予防・治療法の開発	漆山 大知	産婦人科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費
局所細菌フローラの活動性による早産発症の制御システムの解明	宮田 康平	産婦人科	2,210,000	補 委	文部科学省科学研究費
核酸医薬を活用した不妊治療	四元 房典	産婦人科	500,000	補 委	公益財団法人臨床研究奨励基金

クオラムセンシングに着目した早産予防のための創薬開発	宮田 康平	産婦人科	800,000	補 委	公益財団法人 柿原科学技術研究財団研究助成金
アデノウイルス眼感染症発症メカニズムの分子生物学的解析と治療薬剤開発の研究	内尾英一	眼科	1,000,000	補 委	文部科学省
定量的画像バイオマーカーとしてのMRE表現に向けた評価法確立とデータベース作成	吉満研吾	放射線科	470,000	補 委	文科省科研費 基盤研究(B)
FDG及びMIBGシンチを用いた肺移植前後の右心機能、心臓交感神経機能の研究	長町茂樹	放射線部	1,300,000	補 委	文科省科研費 基盤研究(C)
高齢者多発性骨髄腫患者に対する至適な分子標的療法と高齢者評価ソールの確立および治療効果と毒性に関するバイオマーカーの探索的研究	高松泰	腫瘍・血液・感染症内科	975,000	補 委	AMED
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	田邊真紀人	内分泌・糖尿病内科	430,000	補 委	厚生労働省
HAMならびにHTLV-1陽性難治性疾患に関する国際的な総意形成を踏まえた診療ガイドラインの作成	坪井 義夫	脳神経内科	2,200,000	補 委	AMED
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリを介した診療連携モデルの構築によるガイドラインの活用促進と医療水準の均てん化に関する研究	坪井 義夫	脳神経内科	350,000	補 委	厚生労働省
神経変性疾患領域における基盤的調査研究	坪井 義夫	脳神経内科	1,300,000	補 委	厚生労働省
早期診断基準の作成のためのエビデンス構築遺伝性プリオン病の未発症の臨床調査と画像・生体材料の採取に基づく超早期診断基準にかかわる有効性の検証	坪井 義夫	脳神経内科	1,300,000	補 委	AMED
パーキンソン病の起因となる腸管α Synuclein以上蓄積に対する腸内細菌層の関与の解明	坪井 義夫	脳神経内科	1,600,000	補 委	AMED
プリオン病及び遷発性ウイルス感染症に関する調査研究	坪井 義夫	脳神経内科	500,000	補 委	厚生労働省
ビタミンによる様々な神経変性疾患の早期診断法および予防・治療法の開発	坪井 義夫	脳神経内科	100,000	補 委	文部科学省
在宅で暮らす認知症の人の介護者支援のためのガイドライン開発	坪井 義夫	脳神経内科	0	補 委	文部科学省
多系統萎縮症の発症に関与する腸内細菌叢異常を解明する-疫学・遺伝子学的視点より-	坪井 義夫	脳神経内科	0	補 委	文部科学省
軽度アルツハイマー型認知症を対象とする八味地黄丸の認知機能に対する有効性と安全性を確認する探索的オープン標準治療対照無作為化割付多施設共同研究	坪井 義夫	脳神経内科	496,220	補 委	AMED

iPS細胞を用いたPerry症候群患者モデルの確立	坪井 義夫	脳神経内科	800,000	補 委	文部科学省
認知症ワーキングケアラーの介護上のニーズに関する研究	坪井 義夫	脳神経内科	70,000	補 委	文部科学省
Liquid biopsyと腫瘍生検の遺伝子変異パターンによる直腸癌治療の最適化	長谷川 傑	消化器外科	1,200,000	補 委	文部科学省
免疫チェックポイント阻害剤の効果予測、治療選択に有用なバイオマーカーの同定	山田 哲平	消化器外科	900,000	補 委	文部科学省
癌関連マクロファージを介した血管新生因子CCN2のリンパ管新生制御機構の解明	近藤 誠二	歯科口腔外科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
神経筋疾患の嚥下障害が栄養障害に及ぼす影響に関する研究	梅本 丈二	歯科口腔外科	1,170,000	補 委	日本学術振興会
新規 顎関節部治療材 “ナタデコディスク” の開発	吉野 綾	歯科口腔外科	650,000	補 委	日本学術振興会
動脈硬化性疾患患者の口腔内および腸内細菌叢の関連性について	近藤 誠二	歯科口腔外科	4,000,000/2年	補 委	日本歯科医学会
パーキンソン病患者の嚥下機能と服薬状況に関する調査研究	梅本 丈二	歯科口腔外科	500,000/3年	補 委	日本老年歯科医学会
自立型在宅ロボットリハビリテーション法の確立	百武 光一	リハビリ 脳外	300,000	補 委	公益財団法人 臨床研究奨励基金
漢方薬麻黄湯による抗RSウイルス作用機序とその有効成分の解析	鍋島 茂樹	総合診療部	1,300,000	補 委	文部科学省
細胞診による中皮腫診断に関する研究: 遺伝子変異の病理診断システムへの応用 平成31年度～平成33年度	鍋島 一樹	病理部	1,800,000	補 委	文科省科研費 基盤研究(C)
令和元年度石綿関連疾患に係る医学的所見の解析調査業務(中皮腫の遺伝子異常に基づく診断法の開発に関する調査編)	鍋島 一樹	病理部	5,400,000	補 委	環境省
側頭骨扁平上皮癌の網羅的組織解析に基づく新規統合的治療戦略の開発	鍋島 一樹 (分担)	病理部	100,000	補 委	文科省科研費 基盤研究(B)
非抗菌薬を用いた持続感染細胞の駆逐を目指したMRSAバイオフィルムの制御	高田 徹	感染制御部	520,000	補 委	文部科学省科学研究費(基盤C)
病型別に慢性腎臓病の発症及び憎悪に関与する腸内細菌叢以上を解明する	安野 哲彦	腎臓・膠原病内科	4,160,000	補 委	文部科学省科学研究費

最終糖化物(AGEs)の慢性腎臓病に対する影響を解明する-疫学的視点より	伊藤 建二	腎臓・膠原病内科	4,160,000	補 委	文部科学省科学研究費
--------------------------------------	-------	----------	-----------	--------	------------

計 78 計

- (注)
- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
 - 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
 - 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Imaizumi S, Shiga Y, Ogawa M, et al.	循環器内科	Randomized trial of an increased dose of calcium channel blocker or angiotensin II type 1 receptor blocker as an add-on intensive depressor therapy in type 2 diabetes mellitus patients with uncontrolled essential hypertension: the ACADEMIE Study.	Heart Vessels. 34(4):698-710. 2019.4	Original Article
2	Shigemoto E, Iwata A, Futami M, et al.	循環器内科	Influence of chronic kidney disease on coronary plaque components in coronary artery disease patients with both diabetes mellitus and hypertension.	Heart Vessels. 34(7):1065-1075. 2019.7	Case report
3	Suematsu Y, Zhang B, Kuwano T, et al.	循環器内科	Citizen bystander-patient relationship and 1-month outcomes after out-of-hospital cardiac arrest of cardiac origin from the All-Japan Utstein Registry : a prospective , nationwide , population-based , observational study.	BMJ Open, 26;9(7) 2019.7	Original Article
4	Sakai T, Miura S.	循環器内科	Effects of Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitor on Vascular Endothelial and Diastolic Function in Heart Failure With Preserved Ejection Fraction -Novel Prospective Cohort Study-	Circulation Reports 1(7):286-295 2019.7	Original Article
5	Yamamoto T, Shirai K, Okamura K, et al.	循環器内科	Two Years Efficacy of Paclitaxel-Coated Balloon Dilation for In-Stent Renal Artery Restenosis Due to Takayasu Arteritis.	American Journal of Case Reports 20:1089-1093. 2019.7	Original Article
6	Suematsu Y, Kawachi E, Idemoto Y, et al.	循環器内科	Anti-atherosclerotic effects of an improved apolipoprotein A-I mimetic peptide.	International Journal of Cardiology 292:13-18 2019.8	Original Article
7	Otsu Y, Kai M, Suematsu Y, et al.	循環器内科	Assessment of inter-rater agreement between physicians and their patients regarding medication adherence in a clinical questionnaire study.	Medicine (Baltimore). 98(18):e15188. 2019.5	Original Article
8	Takamiya Y, Okamura K, Shirai K, et al.	循環器内科	Multicenter prospective observational study of teneligliptin, a selective dipeptidyl peptidase-4 inhibitor, in patients with poorly controlled type 2 diabetes: Focus on glycemic control, hypotensive effect, and safety Chikushi Anti-Diabetes Mellitus Trial-Teneligliptin (CHAT-T).	Clin Exp Hypertens. 11:1-8. 2019.4	Original Article
9	Okamura K, Okuda T, Takamiya Y, et al.	循環器内科	High Fib4 index in patients with suspected NASH is associated with elevation of chymase-dependent angiotensin II-forming activity in circulating mononuclear leucocytes.	Heart Vessels. 34(9):1559-1569. 2019.9	Original Article
10	Satou S, Okamura K, Konishi R, et al.	循環器内科	Observation of renal sympathetic nerves by intravascular ultrasound.	Hypertens Res. 42(7):1092-1094. 2019.7	Original Article
11	Okamura K, Okuda T, Shirai K, et al.	循環器内科	Increase of chymase-dependent angiotensin II-forming activity in circulating mononuclear leukocytes after acute myocardial infarction chymase activity after acute myocardial infarction.	Heart Vessels. 34(7):1148-1157. 2019.7	Original Article
12	Futami M, Komaki T, Arinaga T, et al.	循環器内科	Postural Conversion Computed Tomography for the Diagnosis of Pneumopericardium due to Perforation by the Active Atrial Lead: A Case Report.	Internal Medicine 59(4):541-544. 2020.2	Review
13	Kuzuhara S*, Suematsu Y*, Yorinaga K*, et al.	循環器内科	Role of Nurses in Comprehensive Care for Cardiac Rehabilitation by a Multidisciplinary Team : a Questionnaire Study	福岡大学医学紀要 47(1)61-68 2020.3	Original Article
14	Tano K*, Suematsu Y*, Tashiro K, et al.	循環器内科	Ezetimibe Monotherapy Reduces Serum Levels of Platelet-Activating Factor Acetylhydrolase in Patients With Dyslipidemia.	J Clin Med Res. 11(10):676-681. 2019.10	Original Article
15	Fujimi K, Imaizumi T, Suematsu Y, et al.	循環器内科	Differential prognostic impact between completion and non-completion of a 5-month cardiac rehabilitation program in outpatients with cardiovascular diseases.	International Journal of Cardiology 15;297:111-117 2019.8	Original Article
16	Matsuo Y*, Suematsu Y*, Idemoto Y*, et al.	循環器内科	Changes in the function of angiotensin II type 1 receptor due to cholesterol depletion from cell membrane.	Biochemical Biophysical Research Communications 514(3):791-797. 2019.5	Original Article

17	Norimatsu K, Kusumoto T, Yoshimoto K, et al.	循環器内科	Importance of measurement of the diameter of the distal radial artery in a distal radial approach from the anatomical snuffbox before coronary catheterization.	Heart Vessels. 34(10):1615-1620. 2019.10	Original Article
18	Kitajima K, Fujimi K, Matsuda T, et al.	循環器内科	Possibility of Cardio-renal Protection by Long-term Cardiac Rehabilitation in Elderly Patients with Cardiovascular Diseases.	Internal Medicine 58(24):3613. 2019.12	Original Article
19	Suematsu Y, Goto M, Park C, et al.	循環器内科	Association of Serum Paraoxonase/Arylesterase Activity With All-Cause Mortality in Maintenance Hemodialysis Patients.	The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism 104(10):4848-4856. 2019.10	Original Article
20	Goto M*, Suematsu Y*, Nunes ACF, et al.	循環器内科	Ferric Citrate Attenuates Cardiac Hypertrophy and Fibrosis in a Rat Model of Chronic Kidney Disease.	Iranian Journal of Kidney Diseases 13(2):98-104. 2019.5	Original Article
21	Ishibashi H, Nimura S, Kayashima Y, et al	消化器内科,病理部	Endoscopic and clinicopathological characteristics of gastrointestinal adult T-cell leukemia/lymphoma.	J Gastrointest Onco 10(4):723-733, Aug.2019	Original Article
22	Morihara D, Ko YL, Shibata K, et al	消化器内科	IL28B Gene Polymorphism Is Correlated with Changes in Low-density Lipoprotein Cholesterol Levels after Clearance of Hepatitis C Virus Using Direct-acting Antiviral Treatment.	J Gastroenterol Hepatol 34(11):2019-2027, Nov.2019	Original Article
23	Inomata S, Anan A, Yamauchi E, et al	消化器内科	Changes in the Serum Hepcidin-to-ferritin Ratio with Erythroferone after Hepatitis C Virus Eradication Using Direct-acting Antiviral Agents.	Internal Medicine 58:2915-2922, Oct.2019	Original Article
24	Sakisaka H, Takedatsu H, Mitsuyama K, et al	消化器内科	Topical Therapy with Antisense Tumor Necrosis Factor Alpha Using Novel α -Glucan-Based Drug Delivery System Ameliorates Intestinal Inflammation	Int J Mol Sci 2020 Jan 20;21(2):683.	Original Article
25	Takata K, Matsumoto K, Hirai F.	消化器内科	Hepatobiliary and Pancreatic: An Intraoperative gallstone due to gallbladder perforation.	J Gastroenterol Hepatol 35(3):362, Mar.2020	Case report
26	Matsumoto T, Fujita M, Hirano R, et al.	呼吸器内科	Risk factors for pneumocystis pneumonia onset in HIV-negative patients treated with high-dose systemic corticosteroids.	Infect Dis (Lond),2019 Apr;51(4):305-307	Original Article
27	Nakao A, Hiranuma O, Uchino J, et al.	呼吸器内科	Osimertinib in Elderly Patients with Epidermal Growth Factor Receptor T790M-Positive Non-Small-Cell Lung Cancer Who Progressed During Prior Treatment: A Phase II Trial.	Oncologist,2019 May;24(5):593-e170	Original Article
28	Kushima H, Kinoshita Y, Watanabe K, et al.	呼吸器内科	Association of Immune Thrombocytopenia and Interstitial Pneumonia.	Intern Med,2019 Nov;58(21):3083-3086	Original Article
29	Kushima H, Ishii H, Kinoshita Y, et al.	呼吸器内科	Chronic Pulmonary Aspergillosis with Pleuroparenchymal Fibroelastosis-like Features.	Intern Med,2019 Apr;58(8):1137-1140	Case report
30	後藤 玲央	精神神経科	Lysophosphatidic acid levels in cerebrospinal fluid and plasma samples in patients with major depressive disorder	Heliyon Volume 5, Issue 5, May 2019	Original Article
31	Goto A, Ishii A, Shibata M, et al.)	小児科	Characteristics of <i>KCNQ2</i> variants causing either benign neonatal epilepsy or developmental and epileptic encephalopathy	Epilepsia (Vol.60, August 2019, Pages 1870-1880)	Original Article
32	石井教士	小児科	Dravet症候群	小児科 (vol.60(6);941-947, 2019年5月)	Review
33	白石 武史	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Transposition of pulmonary veins for mobilization of residual right middle and lower lobes after carinal right upper lobectomy	General thoracic and cardiovascular surgery, Aug.2019	Case report

34	廣瀬 龍一郎	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Laparoscopic fundoplication for a case of esophageal hiatal hernia after gastroschisis repair	Surgical case reports ,Nov.2019	Case report
35	廣瀬 龍一郎	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Portal venous gas in intestinal malrotation with mild midgut volvulus	Surgical case reports ,Sep.2019	Case report
36	岩中 剛	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	A model study for the manufacture and validation of clinical-grade decidual dental pulp stem cells for chronic liver fibrosis treatment	Stem cell research & therapy ,Mar.2020	Original Article
37	Doi N, Izaki T, Miyake S, et al.	整形外科	Intraoperative evaluation of blood flow for soft tissues in orthopaedic surgery using indocyanine green fluorescence angiography: A pilot study.	Bone Joint Res. 2019 Apr 2;8(3):118-125. doi: 10.1302/2046-3758.83.BJR-2018-0151.R1.	Original Article
38	Shibata T, Izaki T, Miyake S, et al.	整形外科	Anatomical study of the position and orientation of the coracoclavicular ligaments: Differences in bone tunnel position by gender.	Orthop Traumatol Surg Res. 2019 Apr;105(2):275-280. doi: 10.1016/j.otsr.2018.10.020.	Original Article
39	Muraoka K, Kleimeyer J, Yao J.	整形外科	Development of a Reproducible Upper Limb Swelling Model.	J Hand Surg Asian Pac Vol. 2019 Dec;24(4):452-455. doi: 10.1142/S2424835519500589.	Original Article
40	Setoguchi D, Kinoshita K, Ishimatsu T, et al.	整形外科	The short external rotators dissection during the posterior approach in total hip arthroplasty did not change the blood flow	Hip Int. 2019 Jul 11:1120700019864077. doi: 10.1177/1120700019864077.	Original Article
41	Minokawa S, Yoshimura I, Kanazawa K, et al.	整形外科	Effect of minimally invasive distal first metatarsal osteotomy on blood flow of the metatarsal head.	J Orthop Sci. 2019 Jul;24(4):693-696. doi: 10.1016/j.jos.2018.11.021.	Original Article
42	Ishii S, Naito M, Kinoshita K, et al.	整形外科	Effects of lateral circumflex femoral artery ligation on blood flow to the surrounding muscles in the direct anterior approach.	Hip Int. 2019 Jul;29(4):412-417. doi: 10.1177/1120700019827487.	Original Article
43	Shibata T, Izaki T, Miyake S, et al.	整形外科	Predictors of safety margin for coracoid transfer: a cadaveric morphometric analysis.	J Orthop Surg Res. 2019 Jun 10;14(1):174. doi: 10.1186/s13018-019-1212-z.	Original Article
44	Kamada S, Shiota E, Saeki K, et al.	整形外科	Severe varus knees result in a high rate of undercorrection of lower limb alignment after opening wedge high tibial osteotomy.	J Orthop Surg (Hong Kong). 2019 May-Aug;27(2):2309499019846660. doi: 10.1177/2309499019846660.	Original Article
45	Kotani N, Morishita T, Saita K, et al.	整形外科	Feasibility of supplemental robot-assisted knee flexion exercise following total knee arthroplasty.	J Back Musculoskelet Rehabil. 2019 Sep 10. doi: 10.3233/BMR-181482.	Original Article
46	Setoguchi D, Kinoshita K, Kamada S, et al.	整形外科	Hybrid Assistive Limb improves restricted hip extension after total hip arthroplasty.	Assist Technol. 2020 Jan 22:1-9. doi: 10.1080/10400435.2020.1712498	Original Article
47	Muraoka K, Le W, Behn AW, et al.	整形外科	The Effect of Growth Differentiation Factor 8 (Myostatin) on Bone Marrow-Derived Stem Cell-Coated Bioactive Sutures in a Rabbit Tendon Repair Model.	Hand (N Y). 2020 Mar;15(2):264-270. doi: 10.1177/1558944718792708.	Original Article
48	Kamada S, Shiota E, Yamashita T, et al.	整形外科	Patellar Dislocation in a Patient with Kabuki Syndrome with Severe Mental Retardation: A Case Report	Progress in Rehabilitation Medicine 2019; Jun 12;4:20190012 https://doi.org/10.2490/prm.20190012	Case report
49	Hidefumi Mimura, Sadanori Akita, Akihiro Fujino, et al.	形成外科	Japanese Clinical Practice Guidelines for Vascular Anomalies 2017.	Jpn J Radiol. 2020 Mar 23. doi: 10.1007/s11604-019-00885-5. [Epub ahead of print]	Original Article
50	Hidefumi Mimura, Sadanori Akita, Akihiro Fujino, et al.	形成外科	Japanese Clinical Practice Guidelines for Vascular Anomalies 2017.	Pediatr Int. 2020 Mar;62(3):257-304. doi: 10.1111/ped.14077. Epub 2020 Mar 22.	Original Article

51	Hidefumi Mimura, Sadanori Akita, Akihiro Fujino, et al.	形成外科	Japanese Clinical Practice Guidelines for Vascular Anomalies 2017.	J Dermatol. 2020 Mar 22. doi: 10.1111/1346-8138.15189. [Epub ahead of print]	Original Article
52	Suzuki K, Akita S, Yoshimoto H, et al.	形成外科	Biological Features Implies Potential Use of Autologous Adipose-Derived Stem/Progenitor Cells in Wound Repair and Regenerations for the Patients with Lipodystrophy.	Int J Mol Sci. 2019 Nov 5;20(21). pii: E5505. doi: 10.3390/ijms20215505.	Original Article
53	Hamed S, Belokopytov M, Ullmann Y, et al.	形成外科	Interim results of the Remede d'Or study: a multicenter, single-blind. Randomized, controlled trial to assess the safety and efficacy of an innovative topical formulation of erythropoietin for treating diabetic foot ulcers.	Adv Wound Care, 2019 Oct 1;8(10):514-521. doi: 10.1089/wound.2018.0808. Epub 2019 Aug 21.	Original Article
54	Rikihisa N, Akita S, Osuga K, et al.	形成外科	Evaluation of pain incidence due to venous malformation based on data from 85 institutions in Japan.	Journal of Vascular Surgery: Venous and Lymphatic Disorders, 2020 Mar;8(2):244-250. doi: 10.1016/j.jvsv.2019.03.008. Epub 2019 Aug 27	Original Article
55	Ishimaru H, Yoshimi S, Akita S	形成外科	Treatment of Periorbital and Palpebral Arteriovenous Malformations.	Adv Wound Care, 2019 Jun 1;8(6):256-262. doi: 10.1089/wound.2018.0846. Epub 2019 Jun 6	Original Article
56	Takahara M, Ogata T, Abe H et al	脳神経外科	The Comparison of Clinical Findings and Treatment Between Unilateral and Bilateral Vertebral Artery Dissection	J Stroke Cerebrovasc Dis. 28(5):1192-99, 2019 6月	Original Article
57	Nonaka M, Morishita T, Yamada K et al	脳神経外科	Surgical management of adverse events associated with deep brain stimulation: A single-center experience	SAGE Open Medicine 8:1-8, 2020 3月	Original Article
58	Enomoto T, Aoki M, Hamasaki M et al	脳神経外科	Midline Glioma in Adults: Clinicopathological, Genetic, and Epigenetic Analysis	Neurologia medico-chirurgica. 60(3):136-146, 2020 3月	Original Article
59	Bayaraa B, Imafuku S.	皮膚科	Sustainability and switching of biologics for psoriasis and psoriatic arthritis at Fukuoka University Psoriasis Registry.	J Dermatol. 2019 May;46(5):389-98	Original Article
60	Ohga Y, Bayaraa B, Imafuku S.	皮膚科	Therapeutic options and prognosis of chronic idiopathic erythroderma in older adults.	Dermatol Ther. 2019 Jul; 32(4):e12977 (オンライン)	Case report
61	Masaki S, Bayaraa B, Imafuku S.	皮膚科	Prevalence of inflammatory bowel disease in Japanese psoriatic patients.	J Dermatol. 2019 Jul;46(7):590-4	Original Article
62	Tsutsui Y, Koga M, Koga K, et al.	皮膚科	Child case of linear variant of telangiectasia macularis eruptiva perstans.	J Dermatol. 2019 Dec;46(12):e469-e70	Letter
63	Ito K, Bayaraa B, Imafuku S.	皮膚科	Relationship between the efficacy of biologics and clinical plaque psoriasis subtypes in Japanese patients: A single-center pilot study.	J Dermatol. 2019 Dec;46(12):1160-5	Original Article
64	Ishibashi-Kunimi Y, Imafuku S.	皮膚科	Cholinergic urticaria with hypohidrosis successfully treated with omalizumab.	J Dermatol. 2020 Feb;47(2):e47-e8 (オンライン)	Letter
65	Imafuku S, Dormal G, Goto Y, et al.	皮膚科	Risk of herpes zoster in the Japanese population with immunocompromising and chronic disease conditions: Results from a claims database cohort study, from 2005 to 2014.	J Dermatol. 2020 Mar;47(3):236-44	Original Article
66	Nakamura N, Aoyagi C, Matsuzaki H, et al.	腎泌尿器外科	Role of Computed Tomography Volumetry in Preoperative Donor Renal Function Evaluation of Living Related Kidney Transplantation.	Transplant Proc. 2019 June; 51(5): 1314-1316	Original Article
67	Tanaka M, Irie S, Nakagawa K, et al.	腎泌尿器外科	Nonischemic or Ischemic Laparoscopic Partial Nephrectomy Using Newly Developed Hybrid Energy Device in a Porcine Model.	J Endourol. 2020 Jan; 34(1): 82-87	Original Article

68	Miyahara D, Yotsumoto F, Hirakawa T, et al.	産婦人科	Clinical Features of Recurrence in Patients Without Residual Tumour in Endometrial Cancer	Anticancer Res•39:4581-4588, 2019 7月	Original Article
69	Kurakazu Mariko, Kurakazu Masumitsu, Murata M, et al.	産婦人科	A partial supernumerary umbilical vein: a case report	J Med Case Rep•2019 May 18;13(1):149. doi: 10.1186/s13256-019-2094-8.	Case report
70	内尾英一	眼科	Clinical outcome after air-assisted manual deep anterior lamellar keratoplasty for fungal keratitis poorly responsive to medical treatment	Clin Ophthalmol 13, 1913-1919, 2019 9月	Original Article
71	Ito Emi, Sato Keisuke, Yamamoto Ryotaro, et al.	放射線科	Usefulness of iodine-blood material density images in estimating degree of liver fibrosis by calculating extracellular volume fraction obtained from routine dual-energy liver CT protocol equilibrium phase data: preliminary experience	Japanese Journal of Radiology•38: 365-373 Apr.2019	Original Article
72	吉満研吾	放射線科	Differentiation of two subtypes of intrahepatic cholangiocarcinoma: imaging approach	Eur Radiol•29(6): 3108-3110 Jun.2019	Review
73	Sato E, Towaga a, Masaki M, et al.	腫瘍・血液・感染症内科	Community-acquired Disseminated Exophiala dermatitidis Mycosis with Necrotizing Fasciitis in Chronic Graft-versus-host Disease	Intern Med 58(6):877-882,2019.05	Case report
74	Takanashi H, Nonmyama T, Terawaki Y, Horikawa T, Kawanami T, Hamaguchi Y, Tanaka T, Motonaga R, Fukuda T, Tanabe M, Yanaga T	内分泌・糖尿病内科	Combined treatment with DPP-4 inhibitor linagliptin and SGLT2 inhibitor empagliflozin attenuates neointima formation after vascular injury in diabetic mice.	Biochem Biophys Rep 18 :100640, Apr.2019	Original Article
75	Kinoshita-Kawada M, Hasegawa H, Hongu T, et al.	脳神経内科	Explant Culture of the Embryonic Mouse Spinal Cord and Gene Transfer by ex vivo Electroporation.	Bio-protocol, Vol 9, Iss 18, September 20, 2019.	Original Article
76	Tamaki K, Sato T, Tsugawa T, et al.	脳神経内科	Cerebrospinal Fluid CXCL10 as a Candidate Surrogate Marker for HTLV-1-Associated Myelopathy/Tropical Spastic Paraparesis.	Front. Microbiol., 11 September 2019 (オンライン)	Original Article
77	Fujioka S, Yoshida R, Nose K, et al.	脳神経内科	A new therapeutic strategy with istradefylline for postural deformities in Parkinson's disease.	Neurologia i Neurochirurgia Polska, Vol 53, No 4, 291-295, 2019. 8月	Original Article
78	Ogata T, Dohgu S, Takano K, et al.	脳神経内科	Increased Plasma VEGF Levels in Patients with Cerebral Large Artery Disease Are Associated with Cerebral Microbleeds.	Cerebrovasc Dis Extra 2019; 9:25-30 4月	Original Article
79	Watanabe J, Ogata T, Tsuboi Y, et al.	リハビリテーション部	Impact of cerebral large-artery disease and blood flow in the posterior cerebral artery territory on cognitive function.	Journal of the Neurological Sciences, Volume 402, 7-11, April 2019.	Original Article
80	Kawazoe M, Arima H, Maeda T, et al.	脳神経内科	Sensitivity and specificity of cardiac 123I-MIBG scintigraphy for diagnosis of early-phase Parkinson's disease.	Journal of the Neurological Sciences, Volume 407, 15 December 2019, 116409	Original Article
81	Mishima T, Fujioka S, Tsuboi Y.	脳神経内科	Perry disease: recent advances and perspectives.	Journal Expert Opinion on Orphan Drugs, Volume 7, 253-259, May 2019.	Review
82	Aisu N, Yoshida Y, Komono A et al.	消化器外科	Phase II study of perioperative chemotherapy with SOX and surgery for Stage III colorectal cancer (SOS3 study)	Scientific Reports 9:16568, 2019.11月	Original Article
83	Yohida Y, Satoh A, Yamada T et al.	消化器外科	The Relationship Between Evaluation Methods for Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy	Scientific Reports 9:20361, 2019.12月	Original Article
84	Shiwaku H, Inoue H, Onimaru M et al.	消化器外科	Multicenter collaborative retrospective evaluation of peroral endoscopic myotomy for esophageal achalasia: analysis of data from more than 1300 patients at eight facilities in Japan	Surg Endosc. 354:464-468,2020.1月	Original Article

85	Shiwaku H, Inoue H, Satoh H et al.	消化器外科	Peroral endoscopic myotomy for achalasia: a prospective multicenter study in Japan	Gastrointest Endosc. Doi.org/10.1016/j.gie.2019.11.020, 2019.11月	Original Article
86	Naito S, Fujikawa T, Hasegawa S	消化器外科	Impact of Preoperative Aspirin Continuation on Bleeding Complications During or After Liver Resection: Propensity Score-Matched Analysis	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences DOI:10.1002/jhbp.735.2020.3月	Original Article
87	Naito S, Naito M, Yamamoto N et al.	消化器外科	Polypoid gallbladder neuroendocrine tumor diagnosed as benign polyp before surgery: A case report	Molecular and Clinical Oncology 12(3):225-229, 2020.3月	Case report
88	Yoshida Y, Yamada T, Matsuoka H et al.	消化器外科	A Trial Protocol of Biweekly TAS-102 and Bevacizumab as Third-Line Chemotherapy for Advanced/Recurrent Colorectal Cancer: A Phase II Multicenter Clinical Trial (The TAS-CC4 Study)	J Anus Rectum Colon 3(3):136-144, 2019.7月	Others
89	Hasegawa S, Okada T, Kojima D et al.	消化器外科	TaTME for Abdominoperineal Excision	Transanal Minimally Invasive Surgery (TAMIS) and Transanal Total Mesorectal Excision (taTME) pp.419-428, 2019.4月	Others
90	Higashi M, Shigematsu K, Nakamori E, Sakurai S, Yamaura K	麻酔科	Efficacy of programmed intermittent bolus epidural analgesia in thoracic surgery: a randomized controlled trial	BMC Anesthesiol・2019 6月	Original Article
91	Iwashita K, Shigematsu K, Yamaura K	手術部	Predicting optimal peripherally inserted central venous catheter insertion depth	日本手術医学会誌 2019年6月	Original Article
92	Shigematsu K, Iwashita K, Mimata R, Owaki R, Totoki T, Gohara A, Okawa J, Higashi M, Yamaura K	手術部	Preoperative left ventricular diastolic dysfunction is associated with pulmonary edema after carotid endarterectomy	Neurol Med Chir・2019年8月	Original Article
93	Mimata R, Higashi M, Yasui M, Hirai T, Yamaura K	手術部	Spinal epidural hematoma following epidural catheter removal in a patient with postoperative urgent coronary intervention and IABP: A case report	Am J Case Rep・2019年9月	Letter
94	Yoshino A, Seto M, Mano R, Kita R, Ishida S, Aoyagi N, Shimamura T, Kondo S.	歯科口腔外科	Rectal administration of midazolam plus ketamine as conscious sedation for injured paediatric patients requiring Oral surgery.	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 2019-07	Original Article
95	Seto M, Kita R, Kondo S.	歯科口腔外科	Sedation with dexmedetomidine in elderly patients during dental surgery: a retrospective case series.	J Korean Assoc Oral Maxillofac Surg. 2019-06	Original Article
96	Hirase M, Kita R, Seto M, Kikuta T, Kondo S.	歯科口腔外科	Effect of Anterior Displacement of the Chin on Pharyngeal Airway Morphology in Skeletal Class III Malocclusion Patients Treated with Orthognathic Surgery.	Med. Bull. Fukuoka Univ.2019-09	Original Article
97	Kamada Satoshi, Etsuji Shiota, Toshiyuki Yamashita. et al	リハビリ・整形外	Progress in Rehabilitation Medicine	Progress in Rehabilitation Medicine Volume 4 https://doi.org/10.2490/prm.20190012, 2019 6月 (オンライン)	Case report
98	Kota Hoshino, Mamiko Naito, et al.	救命救急センター	Differences in coagulopathy and massive transfusion strategy based on trauma type	American Journal of Emergency Medicine・ https://doi.org/10.1016/j.ajem.2019.06.048 Jun.2019 (オンライン)	Original Article
99	Kota Hoshino, Yoshihiko Nakamura, et al.	救命救急センター	Enhanced effect of recombinant human soluble thrombomodulin by ultrasound irradiation in acute liver failure	Scientific Reports・ Sci Rep 10, 1742 (2020). https://doi.org/10.1038/s41598-020-58624-0 Feb.2020 (オンライン)	Original Article
100	Irie Y, Takemoto K, et al.	救命救急センター	Distal superior cerebellar artery aneurysm located at the newly formed anastomotic site with the long circumferential artery of the posterior cerebral artery: A case report.	Interv Neuroradiol.・ 2019 Dec;25(6):648-652. doi: 10.1177/1591019919850036. Epub 2019 May 16. (オンライン)	Letter
101	Kurakazu M, Yotsumoto F, Arima H, et al.	総合周産期母子医療センター	The combination of maternal blood and amniotic fluid biomarkers improves the predictive accuracy of histologic chorioamnionitis	Placenta・80: 4-7, May.2019	Original Article

102	Takeshi Shirai, Ryuichiro Hirose, Hiroki Kai et al.	総合周産期母子医療センター	Blowhole tangential cecostomy and transanal tube insertion for neonatal cecal perforation in a patient with Hirschsprung's disease in the earlier definitive operation era	Surgical Case Reports 2019 5:111 (オンライン) 10.July.2019	Case report
103	Hirose R, Kai H, Inatomi K, Iwanaka T et al.	総合周産期母子医療センター	Portal venous gas in intestinal malrotation with mild midgut volvulus.	Surgical Case Reports 2019 5(1):141(オンライン) 13.September.2019	Case report
104	Hirose R, OBATA S, TOJIGAMORI M, NAKAMURA M et al.	総合周産期母子医療センター	Laparoscopic Fundoplication for a Case of Esophageal Hiatal Hernia after Gastroschisis Repair	Surgical Case Reports 2019 5:167(オンライン) 04.Nov.2019	Case report
105	Hirose R, Shirai T, Yamada T et al.	総合周産期母子医療センター	Laparoscopic-assisted Stamm-gastrostomy: technical modifications to ease suturing inside the minimal trocar site.	Surg Today. 50 (7) :783-786, 2020(オンライン) 13.Nov.2019	Original Article
106	Matsumoto S, Hamasaki M, Kinoshita Y, Kamei T, Kawahara K, Nabeshima K.	病理部	Morphological difference between pleural mesothelioma cells in effusion smears with either BAP1 loss or 9p21 homozygous deletion and reactive mesothelial cells without the gene alterations.	Pathol Int, 69(11):637-645, 2019, Nov	Original Article
107	Kobata K, Mihashi Y, Nonaka S, Matsumoto S, Kawachi S, Takeshita M.	病理部	Cytological tumour cell characteristics and reactive small lymphocytes influence patient prognosis in acute and lymphoma type adult T-cell leukemia/lymphoma.	Cytopathol. 30:402-412. 2019, Jul	Original Article
108	Hamasaki M, Kinoshita Y, Yoshimura M, Matsumoto S, Kamei T, Hiroshima K, Sato A, Tsujimura T, Kawahara K, Nabeshima K.	病理部	Cytoplasmic MTAP expression loss detected by immunohistochemistry correlates with 9p21 homozygous deletion detected by FISH in pleural effusion cytology of mesothelioma.	Histopathology, 75(1):153-155, 2019, Jul	Original Article
109	Kinoshita Y, Hamasaki M, Yoshimura M, Matsumoto S, Iwasaki A, Nabeshima K.	病理部	Hemizygous loss of NF2 detected by fluorescence in situ hybridization is useful for the diagnosis of malignant pleural mesothelioma.	Mod Pathol, 33:235-244, 2020, Feb	Original Article
110	Yoshimura M, Kinoshita Y, Hamasaki M, Matsumoto S, Hida T, Oda Y, Iwasaki A, Nabeshima K.	病理部	Highly expressed EZH2 in combination with BAP1 and MTAP loss, as detected by immunohistochemistry, is useful for differentiating malignant pleural mesothelioma from reactive mesothelial hyperplasia.	Lung Cancer, 130:187-193, 2019, Apr	Original Article
111	Takafumi Nakano, Yoshihiko Nakamura, Kiyoshi Matsuyama, et al.	Pharmaceutical and Health Care Management Pharmacology Pharmacy Emergency and Critical Care Medicine/Biochemistry and Applied Chemistry	Long-Term Treatment with Thrombomodulin Improves Functional Outcomes after Cerebral Ischaemia Even if Administration is Delayed	Stroke, Systemic or Venous Thromboembolism 2019 April (オンライン)	Original Article
112	Akane Nagasato, Masato Hamabashiri, Yukari Ono, et al.	Pharmaceutical and Health Care Management Pharmacy Nephrology and Rheumatology	Three Cases of Drug Discontinuation due to Adverse Events in Systemic Lupus Erythematosus Patients Administered Hydroxychloroquine	Japanese Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 2020 March; 46, 146-152	Case report
113	Masutani K, Tsuchimoto A, Matsukuma Y, et al.	腎臓・膠原病内科	Predictive value of the combination of peripheral blood lymphocyte count and urinary cytology in BK polyomavirus-associated nephropathy.	Transplant Proc 2019, May; 51: 1410-1414	Original Article
114	Yasuno T, Maeda T, Tada K, et al.	腎臓・膠原病内科	Effects of HbA1c on the Development and Progression of Chronic Kidney Disease in Elderly and Middle-Aged Japanese: Iki Epidemiological Study of Atherosclerosis and Chronic Kidney Disease (ISSA-CKD).	Intern Med 2020, Feb; 59: 175-180	Original Article

合計114

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	戒能宏治、藤見幹太、北島研、他	循環器内科	レジスタンストレーニング(運動指導含む)	Modern Physician 39(4):417-420	Case report
2	堀田朋恵、藤見幹太、北島研、他	循環器内科	心臓リハビリテーションと食事療法	Modern Physician 39(5):505-507	Case report
3	杉原充	循環器内科	血管に優しい、新しいバルーン拡張法SSI	CATHELAB JIN カテラボ-ジ Vol.2 No.2 67-68	Case report
4	大津友紀、藤見幹太、神村英利、他	循環器内科	心臓リハビリテーションにおける薬剤師の役割	Modern Physician 39(6):606-609	Case report
5	久原智子、藤見幹太、三浦伸一郎	循環器内科	看護指導	Modern Physician 39(7):699-701	Case report
6	三浦伸一郎	循環器内科	各種リハビリテーションにおける機能性医用食品の役割	日本機能性食品医学会誌 機能性食品と薬理栄養 12(6):325	Case report
7	藤見幹太、三浦伸一郎	循環器内科	心臓リハビリテーションと機能性医用食品	日本機能性食品医学会誌 機能性食品と薬理栄養 12(6):332	Case report
8	藤見幹太、三浦伸一郎	循環器内科	心不全患者の最新リハビリテーション	循環器内科 49	Case report
9	坂本摩耶、藤見幹太、三浦伸一郎	循環器内科	包括的心臓リハビリテーションにおける心理的介入	Modern Physician 39(8):779-781	Case report
10	手島礼子、藤見幹太、松田拓朗、他	循環器内科	開心術後の心房細動発生と左室機能や身体機能回復の関連性	臨床と研究 96(8):82-85	Original Article
11	藤見幹太、北島研、三浦伸一郎	循環器内科	総括:心臓リハビリテーション	Modern Physician 39(9):875-878	Case report
12	藤見幹太、三浦伸一郎	循環器内科	スポーツにおける食品の機能性	Journal of CLINICAL REHABILITATION 28(11):1118-1121.	Case report
13	北島研、藤見幹太、三浦伸一郎	循環器内科	心臓リハビリテーション指導士制度について	循環器内科 86(5):649-653	Case report
14	有村忠聰、朝啓二郎、三浦伸一郎	循環器内科	心筋症に伴う突然死	循環器症候群(第3版) 別冊日本臨床 434-438	Case report
15	小川正浩	循環器内科	Pro⇔Proプロからプロへ(質問者)心サルコイドーシスに合併する心室不整脈の治療は?	日本医事新報 52 4983:	Case report
16	小川正浩	循環器内科	Pro⇔Proプロからプロへ(質問者)心サルコイドーシスに合併する心室不整脈の治療は?	日本医事新報 53 4989:	Case report
17	志賀悠平、三浦伸一郎	循環器内科	降圧薬療法の進め方	臨床と研究 97(1):23-27	Case report
18	戒能宏治、松田拓朗、藤見幹太、他	循環器内科	心血管病患者の体力と身体機能スクリーニングにおけるロコモチェックシートの有用性	臨床と研究 別冊 97(2):95-98	Original Article
19	Ishibashi H, Nimura S, Tanabe T, et al	消化器内科、病理部	A Case of Gastric Adenocarcinoma of Fundic Gland Mucosa Type Arising from Helicobacter pylori-Negative Mucosa	Med. Bull. Fukuoka Univ 47(1):87-92, 2020	Case report
20	藤田昌樹、菊地利明	呼吸器内科	Hot tub lungの原因菌としての非結核性抗酸菌症	臨床と微生物・2019年7月 46;4:353-357	Review
21	藤田昌樹	呼吸器内科	夏型過敏性肺炎	臨床と研究・2019年7月 96(7):826-829	Review
22	藤田昌樹	呼吸器内科	びまん性肺疾患の分類	臨床と研究・2019年10月 96(10):1115-1119	Review

23	藤田昌樹	呼吸器内科	びまん性汎細気管支炎	臨床と研究・2019年12月 96(12):1469-1473	Review
24	Ogushi Y, Gotoh L, Hatanaka A, Kawaguchi T, Kira K, Kawasaki H.	精神神経科	Alterations in Behavior and Brain Monoamine Levels of Olfactory Bulbectomized Rats Following Salko-ka-ryukotsu-borei-to Administration	Medical Bulletin of Fukuoka University Vol. 47 No. 1, March 2020	Original Article
25	Hatanaka A, Leo G, Yuma O, Takako F, Masayuki T, Kohei H, Hiroaki K	精神神経科	Effect of Low-Intensity Forced Exercise on Hyperemotionality in an Olfactory Bulbectomized Rat Model of Depression.	Medical Bulletin of Fukuoka University 47(1):69-76,2020	Original Article
26	Iida H, Ogomori K, Kuwaabara Y, Nagamachi S, Kawasaki H	精神神経科	Relationship Between Changes in Cerebral Blood Flow and Neuropsychiatric Symptoms in Dementia with Lewy Bodies	Medical Bulletin of Fukuoka University 47(1): 31-39, 2020	Original Article
27	Eto N	精神神経科	Learning from my experiences and mistakes with suicidal patients.	The Journal of the Japan Psychoanalytic Society Vol.1, 2019	Original Article
28	衛藤暢明, 原田康平, 松尾真裕子, 吉良健太郎, 大串祐馬, 畑中聡仁, 川崎弘詔	精神神経科	総合病院精神科外来での自殺予防	精神神経学雑誌 121(11)	Original Article
29	Dong M, Zeng LN, Zhang Q, Yang SY, Chen LY, Najoan E, Kallivayalil RA, Viboonna K, Jamaluddin	精神神経科	Prescription of antipsychotic and concomitant medications for adult Asian schizophrenia patients: Findings of the 2016 Research on Asian Psychotropic Prescription Patterns (REAP)	Asian J Psychiatr. 45:74-80, 2019	Original Article
30	Takaesu Y, Watanabe K, Numata S, Iwata M, Kudo N, Oishi S, Takizawa T, Nemoto K, Yasuda Y.	精神神経科	Improvement of psychiatrists' clinical knowledge of the treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders using the 'Effectiveness of Guidelines for Dissemination and	Psychiatry Clin Neurosci. 73(10):642-648, 2019	Original Article
31	後藤恭輔, 塩田悦仁, 井原由紀子, 久保田慧, 衛藤暢明, 鎌田聡	精神神経科	認知行動療法を主体とした理学療法介入が奏功した小児身体表現性障害の1症例	ペインクリニック Vol.40(8), 2019	Case report
32	畑中聡仁, 原田康平, 衛藤暢明, 松下満彦, 徳永雄一郎, 川崎弘詔	精神神経科	入院中の自殺予防	精神科 34(5):499-505-2019	Review
33	堀輝, 飯田仁志, 朴相運, 南達元, 新福尚隆	精神神経科	アジア諸国の外来精神医療	外来精神医療 20(1):33-36, 2020	Review
34	飯田仁志	精神神経科	福岡県の外来精神医療 福岡県デイ・ケア研究協議会30年の歩み	外来精神医療 20(1):17-20, 2020	Review
35	箱田浩介, 吉良健太郎, 衛藤暢明, 川崎弘詔	精神神経科	抗うつ薬の使い方	臨床と研究 96(5), 2019	Review
36	永野健太, 衛藤暢明, 川崎弘詔	精神神経科	遅発統合失調症・遅発性統合失調症	精神科 35 [Suppl.1]: 54-57, 2019	Review
37	衛藤暢明(分担・訳)	精神神経科	精神力動的精神医学 第5版 G・O・ギャバード(著)	岩崎学術出版社 pp.399-426, 2019	Others
38	大串祐馬, 川崎弘詔	精神神経科	臨床精神薬理 双極性気分障害の寛解・回復後の治療・薬物維持療法と減薬・休薬の基準	星和書店 Vol. 22 No. 8 pp.791-797, 2019	Others
39	Akita S	形成外科	Wound Repair and Regeneration	Int J Mol Sci. Int J Mol Sci. 2019 Dec 15;20(24). pii: E6328. doi: 10.3390/ijms20246328	Others
40	Kawahara T, Takita M, Masunaga A, et al.	形成外科	Fatty Acid Potassium Had Beneficial Bactericidal Effects and Removed Staphylococcus aureus Biofilms while Exhibiting Reduced Cytotoxicity towards Mouse Fibroblasts and Human Keratinocytes	Int J Mol Sci. 2019 Jan 14;20(2). pii: E312. doi: 10.3390/ijms20020312.	Original Article
41	Tan J, Ohjimi H, Takagi S, et al.	形成外科	Rezoning Free Muscle-Sparing Transverse Rectus Abdominis Myocutaneous Flaps Based on Perforasome Groupings and a New Understanding of the Vascular Architecture of the Deep Inferior Epigastric Artery-Based Flaps.	Ann Plast Surg. 83(6):e59-e67, 2019	Original Article
42	Watanabe J, Ogata T, Tsuboi Y et al	リハビリテーション科	Impact of cerebral large-artery disease and blood flow in the posterior cerebral artery territory on cognitive function	Journal of the Neurological Sciences. 402:7-11, 2019	Original Article
43	Miki K, Abe H, Morishita T et al	脳神経外科	Double-crescent sign as a predictor of chronic subdural hemotoma recurrence following burr-hole surgery	J Neurosurg 131(6): 1905-11, 2019	Original Article
44	Morishita T, Miki K, Inoue T	脳神経外科	Penfield Homunculus and Recent Advances in Brain Mapping	World Neurosurgery 134(2):515-17, 2020	Original Article
45	川上麻衣, 清水裕毅, 久保田由美子	皮膚科	プロモバレル尿素含有市販鎮痛薬の長期内服による臭素疹の1例	西日本皮膚科. 2019 Apr;81(2):120-4	Case report

46	田代綾香、古賀文二、古賀佳織、その他	皮膚科	Milk Lineに生じた部位特異的母斑の1例	西日本皮膚科. 2019 Jun;81(3):184-6	Case report
47	福與麻耶、日野亮介、今福信一	皮膚科	アプレミラストが有効であった掌蹠型乾癬の1例	西日本皮膚科. 2019 Oct;81(5):387-91	Case report
48	荒巻ちひろ、伊藤宏太郎、大賀保範、その他	皮膚科	トニックウォーターに含まれるキニーネによる固定疹の1例	西日本皮膚科. 2019 Oct;81(5):377-81	Case report
49	麻生麻里子、伊藤宏太郎、大賀保範、その他	皮膚科	手術中に生じたラテックスによるアナフィラキシーショックの1例	西日本皮膚科. 2020 Feb;82(1):10-3	Case report
50	Matsuoka H, Tanaka M, Yamaguchi T, et al.	腎泌尿器外科	The long-term prognosis of nephropathy in operated reflux.	J Pediatr Urol. 2019 Dec; 45(6): 605e1-605e8	Original Article
51	佐藤圭亮、長町茂樹、野々熊真也、他	放射線科	DLBとADの鑑別診断における脳血流SPECT上のcingulate island score(偽陰性、偽陽性例)の検討	臨床放射線・65(2): 141-147	Original Article
52	角田奈帆子、長町茂樹、野々熊真也、他	放射線科	術前FDG-PET/CT,MRIが有用であった頭頸部同時三重複癌の1例 (A case with triple head neck cancer diagnosed by FOG-PET/CT and MRI)	臨床核医学・52(3): 34-36	Case report
53	吉瀧研吾、坂本桂子、浦川博史	放射線科	肝胆膵領域の画像診断-良悪性疾患の鑑別を中心に-: 胆道病変における良悪性の鑑別	臨床放射線・64(5): 663-680	Review
54	長町茂樹	放射線部	認知症診療における脳血流SPECT検査の使い所	臨床と研究・96(5): 617-623	Review
55	高松泰	腫瘍・血液・感染症内科	アグレッシブリンパ腫の国際予後指標(IPI)	胃と腸 54(5)増刊号:773,2019.05	Review
56	正木充生、高松	腫瘍・血液・感染症内科	データの解釈と指導の実際 血算	月刊 臨床と研究 別冊 96(8):36-41,2019.08	Review
57	高松泰	腫瘍・血液・感染症内科	再発・抵抗性多発性骨髄腫に対するCASTOR試験とPOLLUX試験	血液内科 79(4):454-459,2019.12	Review
58	戸川温、高田徹、高松泰	感染制御部、腫瘍・血液・感染症内科	外来で診る高齢者の皮膚・軟部組織感染症	月刊 臨床と研究 別冊 96(12):49-53,2019.10	Review
59	嶋田裕史	臨床検査部	職業リハビリテーションとリハ科医の役割、脳画像診断の進歩	CLINICAL REHABILITATION・ Vol.28 No.1, 2019	Review
60	手島礼子、藤見幹太、松田拓朗等	リハビリ	開心術後の心房細動発生と左室機能や身体機能回復の関連性	臨床と研究 96(8): 958-961, 2019	Original Article
61	戒能宏治、松田拓朗、藤見幹太等	リハビリ	心血管病患者の体力と身体機能スクリーニングにおけるロコモチェックシートの有用性	臨床と研究 97(2): 223-226, 2020	Original Article
62	後藤恭輔、塩田悦仁、井原由紀子等	リハビリ	認知行動療法を主体とした理学療法介入が奏功した小児身体表現性障害の一症例	ペインクリニック 40(8): 1093-1098	Case report
63	鎌田 聡、山本卓明	リハビリ・整形外科	リハビリテーションにおける疼痛への対応	臨床と研究 97(2) 62-66,2020	Others
64	Megumi Yano	Clinical Laboratory	Comparison of two homogeneous LDL-Cholesterol assay using fresh hypertriglyceridemic serum and quantitative ultracentrifugation fractions	J Atheroscler Thromb Vol.26(11) 979-988, 2019	Original Article
65	石川 道子	臨床検査部	福岡大学病院における全自動尿中有形成分分析装置UF-5000を用いた尿沈渣の運用について	Sysmex Journal Vol.20(1) 9-16, 2019	Review
66	Kennichi Nagamatsu, Tomoharu Akai, Sinichirou Nakane et al.	放射線部	多次元検出器を用いた解剖学的線量計算解析機能の有用性に関する一考察	日本診療放射線技師会誌 2020.3 Vol.67/No.809 P24~P29	Others
67	森脇典弘、宮崎元康、山田楊太、他	薬剤部 臨床検査部 呼吸器内科	検体検出部位別・検出菌株別による大腸菌および緑膿菌の薬剤感受性の比較検討	薬理と治療 2019, July; 47, 1035-41	Original Article
68	大塚誠、池内忠宏、佐々木史香、他	薬剤部 薬学部	持参薬確認業務の実態と非薬剤師の導入効果	九州薬学会雑誌 2019 November; 73, 29-31	Original Article
69	池内忠宏、兼重晋、緒方憲太郎、他	薬剤部 薬学部	バーコードを利用した注射薬鑑査システムによるリスクマネジメント	医療と安全 2019 December; 11, 4-9	Original Article

70	戸川 温, 高田 徹, 高松 泰.	感染制御部	高齢者感染症の外来マネージメント 外来で診る高齢者の皮膚・軟部組織感染症2版目	臨床と研究 96(12):49-53, 2019.	Review
71	萩尾友宣, 吉村一朗	整形外科	【外来でよく診る足疾患】足部神経障害の診かた	Orthopaedics 32(1)63-68	Original Article
72	村岡 邦秀, 飯田 博幸, 田中 祥継	整形外科	鏡視下手根管開放術における手根管内ステロイド投与併用の効果	日本手外科学会雑誌 36(4) 100-102, 2019	Original Article
73	金澤 和貴, 三宅 智, 坂本 哲哉, et al.	整形外科	脛骨遠位骨端線損傷の手術成績	骨折 41(3)1017-1021, 2019.6	Original Article
74	南川 智彦, 柴田 陽三, 養川 創	整形外科	RSAの上腕骨ステムデザインが術後短期成績へ影響を与えるのか?	肩関節 43(3) 891-895, 2019	Original Article
75	木山 貴彦, 佐伯 和彦, 前山 彰, et al.	整形外科	内側開大高位脛骨骨切り術において膝関節外側軟骨損傷が臨床成績に及ぼす影響	JOSKAS 44(1) 76-77, 2019	Original Article
76	石井 聡大, 木山 貴彦, 佐伯 和彦, et al.	整形外科	高位脛骨開大骨切り術後感染例の検討	JOSKAS 44(1) 94-95, 2019	Original Article
77	南川 智彦, 柴田 陽三, 伊崎 輝昌, et al.	整形外科	反復性肩関節脱臼に対する直視下Latarjet法の我々の適応とスポーツ復帰状況	JOSKAS 44(3) 603-609, 2019	Original Article
78	吉村一朗	整形外科	【足関節の鏡視下手術】足関節の鏡視下手術 過去・現在・未来	整形・災害外科 62(4)335-339, 2019	Original Article
79	田中 祥継, 村岡邦秀, 田中 秀明, et al.	整形外科	第一中手骨骨切り術でのCM関節面における応力の評価	整形外科と災害外科 69(1) 150-153, 2020	Original Article
80	宮崎 弘太郎, 柴田 陽三, 秋吉 祐一郎, et al.	整形外科	直視下Latarjet法術後に上腕骨頭後方の扁平化を来した1例	整形外科と災害外科 68(1) 71-74, 2019	Case report
81	田中 秀明, 北村 歳男, 生田 拓也, et al.	整形外科	一撃的な外力がなく生じた上腕二頭筋短頭筋腹皮下不完全断裂の一例	肩関節 43(2) 576-579, 2019	Case report
82	藤田 潤	整形外科	若年者に発症した梨状筋腫瘍の1例	整形外科と災害外科 68(4) 705-707, 2019	Case report
83	田中 秀明, 入江 弘基, 工藤 悠貴, et al.	整形外科	手根管遠位部の石灰沈着性腱炎によって手指弾発症状を呈した一例	整形外科と災害外科 68(4) 758-762, 2019	Case report
84	田中 祥継, 村岡 邦秀, 山本 卓明	整形外科	臨床室 アルカプトン尿症に発症した上腕骨外側上顆炎の1例	整形外科 70(13) 1364-1367, 2019	Case report
85	山本 卓明	整形外科	関節内に発生する軟骨下脆弱性骨折の診断と治療	鹿児島県整形外科医会報 28:38-39, 2020	Review
86	伊崎 輝昌, 中山 鎮秀, 三宅 智, et al.	整形外科	肩関節における軟骨下脆弱性骨折	臨床整形外科 55(1)41-46, 2020	Review

87	伊崎 輝昌	整形外科	肩関節外傷に対するリバーズ型人工肩関節置換術	整形・災害外科 62(12)1497-1504,2019	Review
88	木下浩一, 山本卓明	整形外科	整形外科医に必要な画像読影と撮影テクニック<増刊号>, 股関節疾患のCTおよびMRIの描出方法と読影ポイント	Monthly book orthopaedics 32(12), 2019年	Review
89	萩尾 友宣, 吉村 一朗	整形外科	足部神経障害の診かた	MB Orthop. 32(1):63-68, 2019	Review
90	坂本 哲哉	整形外科	大腿骨頭部骨折に対する、人工股関節全置換術と人工骨頭置換術の合併症と医療費の比較	臨床整形外科 第54巻 第12号 1277頁 2019	Review
91	山本 卓明	整形外科	新しい疾患概念「軟骨下脆弱性骨折」から見えてきたこと	臨床整形外科 55(1):2, 2020	Review
92	山本 卓明	整形外科	大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折の診断と治療	関節外科 38(7)、14-18, 2019	Review
93	山本 卓明	整形外科	特発性大腿骨頭壊死症	医薬品副作用学(第三版)下 日本臨床 77: 511-515, 2019	Review
94	山本 卓明	整形外科	内科医に求められる他科の知識:ステロイド関連大腿骨頭壊死症	臨床雑誌 内科 124(3)、1965-8、2019	Review
95	鎌田 聡, 山本卓明	整形外科	リハビリテーションにおける疼痛への対応	臨床と研究 97(2): 62-66, 2020	Review
96	山口和記、大賀保範、國見侑花その他	皮膚科	福岡大学病院皮膚科における乾癬の内服治療の推移	西日本皮膚科. 2019 Aug; 81(4): 316-20	Original Article
97	今福信一、古賀文二、伊藤宏太郎、その他	皮膚科	乾癬患者に対する松樹皮抽出物(フラバンジェノール)摂取の臨床効果と血中脂質への影響の検討	日本臨床皮膚科医会雑誌. 2019 Nov;36(6):731-6	Original Article
98	大木公介	総合診療部	急性咽頭炎に続発したSAPHO症候群の一例	日本病院総合診療医学会誌 第15巻 第3号	Case report

合計98

1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 福岡大学医に関する倫理委員会標準業務手順書 ・ 医に関する倫理委員会審査事項、迅速審査事項及び報告事項	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 福岡大学利益相反に関する規定 ・ 福岡大学臨床研究に係る利益相反ポリシー ・ 福岡大学臨床研究に係る利益相反マネジメント委員会に関する内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年12回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 人を対象とする医学系倫理指針について ・ 利益相反(COI)について	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

内科専攻医研修プログラムに基づく研修
消化器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修
呼吸器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修
精神科専門医研修プログラム
小児科後期臨床研修プログラムに基づく研修
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
整形外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
形成外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
脳神経外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
心臓血管外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
皮膚科後期臨床研修プログラムに基づく研修
泌尿器科専門研修施設群専門研修プログラム」に基づく研修
産婦人科後期臨床研修プログラムに基づく研修
眼科後期臨床研修プログラムに基づく研修
耳鼻咽喉科専門研修プログラムに基づく研修
放射線科後期臨床プログラムに基づく研修
歯科口腔外科後期臨床研修プログラムに基づく研修
麻酔科後期臨床プログラムに基づく研修
救命救急センター後期臨床プログラムに基づく研修

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	93.12人
-------------	--------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
三浦 伸一郎	循環器内科	主任教授	26年	
平井 郁仁	消化器内科 内視鏡部	主任教授	29年	消化管領域
釈迦堂 敏	消化器内科	主任教授	35年	肝胆膵領域
藤田 昌樹	呼吸器内科	主任教授	33年	
川崎 弘詔	精神神経科	主任教授	35年	
廣瀬 伸一	小児科	主任教授	40年	
岩崎 昭憲	呼吸器乳腺内分 泌小児外科	主任教授	35年	
山本 卓明	整形外科	主任教授	30年	
高木 誠司	形成外科	准教授	25年	
井上 亨	脳神経外科	主任教授	40年	
和田 秀一	心臓血管外科	主任教授	29年	
今福 信一	皮膚科	主任教授	28年	
田中 正利	腎泌尿器外科	主任教授	40年	
宮本 新吾	産婦人科	主任教授	37年	
内尾 英一	眼科	主任教授	25年	

坂田 俊文	耳鼻咽喉科	主任教授	34年
吉満 研吾	放射線科	主任教授	34年
喜多村 泰輔	救命救急センター	准教授	27年
秋吉 浩三郎	麻酔科	主任教授	22年
近藤 誠二	歯科口腔外科	主任教授	28年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
・研修の主な内容	院内教育（全職員対象） 患者急変時の対応（救急蘇生法・AED演習）、転倒・転落防止のための安全な移動法、安全な気管吸引法、安全な抗がん剤の取り扱い、安全な与薬・インスリン投与、安全な輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い
・研修の期間・実施回数	各研修 1時間、15回/年 実施
・研修の参加人数	令和元年度 763名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）	
・研修の主な内容	新採用者に対する研修
・研修の期間・実施回数	4月上旬～中旬のうち2日間、計4回
・研修の参加人数	令和元年度 158名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	
・研修の主な内容	メディカルセミナー
・研修の期間・実施回数	令和元年度 3回開催
・研修の参加人数	医師以外合計 154名 医師合計 88名
・研修の主な内容	糸島医師会・福大病院 地域連携学術講演会
・研修の期間・実施回数	令和元年度 3回開催
・研修の参加人数	医師以外合計 77名 医師合計 28名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

病院の管理及び運営に関する諸記録	三項に掲げる事項 規則第二十二條の三第	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	応ずることとしている。 先進医療実績報告(帳簿管理)	
		高度の医療の提供の実績	庶務課		
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課		
		高度の医療の研修の実績	庶務課		
		閲覧実績	庶務課		
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携センター		
	一項に掲げる事項 規則第一條の十一第	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	紙媒体で台帳保管、またデータ保管	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部		医療安全管理部にて一括管理 以下項目、上記に同じ
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部		
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部		
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部 医療安全管理部 庶務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター		

感染制御部にて一括管理
以下項目、上記に同じ

薬剤部にて一括管理
以下項目、上記に同じ

臨床工学センターにて一括管理
以下項目、上記に同じ

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	医療安全管理部
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医療安全管理部		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	医療安全管理部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	事務長 岳 弘司	
閲覧担当者氏名	庶務課長 赤木 須美男 医事課長 江淵 猛雄 医療情報部事務室長 小陽 賢一	
閲覧の求めに応じる場所	病院西別館3階B会議室	
閲覧の手続の概要		
閲覧を希望の際には、庶務課へ申請を行い、閲覧室である病院西別館3階B会議室にて閲覧を行う。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 安全管理に関する基本的考え方2. 安全管理のための委員会および院内の組織に関する基本事項3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針4. 安全確保を目的とした改善策を講ずるための基本方針5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針7. 患者からの相談への対応に関する基本方針8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 開催状況：年 11 回 (6月は診療報酬改定関係で休止)</p> <p>・ 活動の主な内容：医療安全管理委員会 (1回/月)</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 24 回
<p>・ 研修の内容 (すべて)：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療安全院内教育 8 回2. 医療安全実践セミナー 11 回3. セーフティーマネージャー安全管理研修 1 回4. 医療安全の基本 4 回	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療事故・合併症・重要インシデント事例の検討・医療安全教育の企画。2. 医療安全管理者が抽出したインシデント事例を医療安全管理部小委員会で検討し、改善を要するものはセーフティーマネージャー会を通じて伝達している。また、全職員に電子カルテ掲示板で会議資料を公開し、安全管理・危機管理意識の向上に努めている。	

3. 医療安全管理責任者および医療安全管理者は、事故・インシデント・合併症発生時など、必要に応じて当事者、当該部署と個別に対応し指導する。特に重要事例に関しては、検討会を開いて、迅速な対応を心掛けている。
4. 病院全体の問題として取り上げる必要がある事例は、医療安全管理委員会に提言し、安全管理の改善に役立てる。
5. 「安全管理レポート」（毎月）と「医療安全情報」（適時）を発行し、全職員へフィードバックおよび周知徹底を図っている。
6. 医療安全管理院内ラウンドを月 1 回実施し、現状把握および周知徹底を図っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会および院内の組織に関する基本事項 3. 感染対策に関する教育・研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応 6. 感染対策の閲覧に関する基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 各12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策委員会（1 回／月） ・ 感染制御部会議（1 回／月） ・ セーフティーマネジャー会（1 回／月） ・ 看護部部内感染対策委員会（1 回／月） 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全院内教育 4 回 2. 医療安全実践セミナー 2 回 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「院内感染対策のための指針」に即した院内感染対策マニュアルを整備し、遵守状況を院内各部署のラウンドで確認している。 2. 1 回／週、ICT（ICD、感染管理認定看護師（CNIC）、臨床検査技師、薬剤師の4職種）が院内各部署のラウンドを行い、微生物ラウンド、環境ラウンドを実施している。微生物ラウンドに際して、資料（細菌検査室で全部署直近 2 週間分のラウンド対象患者一覧表）を毎回準備している。 3. 感染対策支援システム（電子カルテ端末上）で毎日、血液培養陽性者、抗酸菌陽性者、新規多剤耐性菌検出患者等の報告を確認し、部署の感染対策について情報共有している。また、毎週1回以上、ICTミーティングを行っている。 4. 院内感染を疑う場合には適宜、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応している。 	

(様式第 6-2)

5. 行政への報告対応が必要な場合には、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応している。
6. アウトブレイク等問題が発生した部署については、適宜介入し、当該部署のスタッフを対象に研修会を開催している。アウトブレイク介入事例については、病院職員に対して電子カルテ端末上で通知し、診療部長会、感染対策委員会、セーフティーマネジャー会を通じて感染対策についての周知徹底を図っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年29回
・ 研修の主な内容： ○注意すべき医薬品の取り扱い ○安全性速報 ○薬剤の基本的知識 ○医薬品による副作用報告体制 ○ハイリスク薬 ○医薬品の安全管理 ○麻薬・インスリン・ベンゾジアゼピン系薬剤 ○せん妄 ○麻薬の取り扱い ○医薬品の供給制限および自主回収 ○炭酸水素Na誤投与による急変死亡 ○医師として知っておくべき薬剤の知識 ○医薬品の副作用（悪心・嘔吐） ○インシデント事例（傾向と対策）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （ 有 ） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ○医薬品の採用：薬事委員会において、医薬品安全管理責任者の立場で採用の可否を審議 ○医薬品の管理：各部署で手順書業務確認表を用いて期限等を確認、月単位で医薬品安全管理責任者が確認 麻薬、覚醒剤原料は業務開始時に理論在庫数と実在庫数が一致するか確認 ○患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項：注射払出システムによるバーコード認証の導入、特にリスクの高い医薬品の調剤時は薬歴、病名を確認し、処方内容を検討 ○患者に対する与薬や服薬指導に関する事項：薬剤管理指導業務の推進 病棟薬剤業務の推進 ○医薬品情報の収集・提供：医薬品情報室による情報収集と発信、副作用報告の一元管理 ○他施設との連携：持参薬の確認および退院時指導の推進、病診薬連携の推進 薬剤情報ネットワーク（VPCS）の活用	

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :
Verorab (輸入狂犬病ワクチン) : 海外渡航時、
ブリリアントブルーG (院内製剤) : 黄斑疾患に対する硝子体手術時の内境界膜染色
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
 1. ハイリスの常備薬 (K 製剤やインスリンなど) に注意喚起のカードを設置
 2. 使用後のフェントステープ回収の為の袋を準備し、回収方法を徹底
 3. 入院処方時のフリーコメントは薬袋に反映されない為機能削除
 4. 販売名類似医薬品 (例: アスベリン錠とアスペノンカプセル) の表示を工夫

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>病棟、外来で多く使用されている輸液、シリンジポンプの研修を新人医師と看護師を対象に医療安全管理部と計画し実施している。</p> <p>年 2 回中途採用の医師を対象に医療機器についてのセミナーを実施。</p> <p>臨床工学技士全スタッフ対象に 5 項目（血液浄化装置、補助循環装置、人工呼吸器、除細動器、保育器）の研修の実施。</p> <p>新規購入機器に対し対象部署スタッフに使用方法の研修の実施。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>人工心肺、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、AED、閉鎖式保育器、シリンジポンプ、輸液ポンプ、麻酔器、生体情報モニタ、他全 35 項目の保守計画を作成し院内点検とメーカー点検を実施し、記録している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>医薬品医療機器総合機構、日本医療機能評価機構、日本医療安全調査機構、日本臨床工学技士会、厚生労働省、各メーカーによる安全情報の収集。</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：特になし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>臨床工学センターで機器の中央管理を行うことで、機器使用状況や修理状況の把握。</p> <p>機器の一元化を行うことで安全使用が可能にある。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 1 3 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理者責任者は以下のように医療安全管理部門等を統括している。</p> <p>1. 病院長と連携し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務の管理・指導を行っている。</p> <p>2. 医師・薬剤師・看護師の医療安全専従者(医療安全管理者)の業務の管理指導を行っている。</p> <p>3. 専門分野責任者と連携し、各部門の医療安全を推進・指導している。</p> <p>4. 医療事故発生時は、事故調査委員会、事故対策委員会における病院長の支援を行い、医療安全上の課題への対策について職員への周知、指導を行っている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (11 名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>薬剤師部薬品情報室に終日担当者を設置して情報の整理・周知を一元化</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>適用外・禁忌使用処方について、調剤支援システムを用いて抽出する。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有)</p> <p>・担当者の所属・職種：(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容</p> <p>：毎月診療科・部署の医師・看護師に対してインフォームドコンセント記録を基に、説明日時・場所、同席者 (医療者・患者の家族)、患者・家族の反応等が記載されているか等の事項について監査を行っている。不備が認められる場合はインフォームドコンセント委員会から部署に改善指導を行っている。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有) 無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>① 退院カルテのチェック</p> <p>退院後、病棟で「【入院】患者ファイル完成チェックリスト」に沿って、退院カルテについて紙保存と電子カルテ作成分の量的監査を行い、入院カルテ庫へ提出する。</p> <p>入院カルテ庫では病棟でチェックされた「【入院】患者ファイル完成チェックリスト」を使用してダブルチェックを行い、不備があれば確認を依頼している。また、診療情報管理士が病歴管理システム入力時にも監査を行っており、退院サマリや手術記録などに不備があれば確認・訂正を依頼している。</p> <p>② 入院診療計画書</p> <p>毎日入院後 6 日目で入院診療計画書が電子カルテ上未提供の患者、または入院中で記載内容に不備がある患者について「入院診療計画書（6 日目作成状況一覧）」を作成し、対象病棟へ配布している。また、翌日（入院後 7 日目）は前日配布したリストを基に再度チェックを行い、未提供の患者については診療情報管理士から病棟師長へ確認の連絡をしている。</p> <p>③ 委譲者オーダ・研修医カルテ未承認督促</p> <p>前週の金曜日までの未承認を抽出し、週 1 回電話および未承認リスト送付にて督促。前月以前の未承認が残っている医師を最優先で督促を行なっている。</p> <p>④ カルテレビュー</p> <p>平成 29 年度より毎月各医局長や看護師長、部門の代表者が集まる病床管理責任者連絡会などで全診療科を対象に対象となった診療科のカルテレビューを実施し、多職種でカルテ記載内容を評価し共有している。</p> <p>⑤ カルテ自主点検</p> <p>毎月 1 回医師によるカルテ自主点検を行っており、他科と自科のカルテ入・外各 2 名分を「カルテ記載点検リスト」に基づき点検し、フィードバックしている。また、診療情報管理士も同じリストを使用し、評価を行っている。</p> <p>⑥ 診療情報管理士によるカルテ監査</p> <p>毎日入院中や退院翌日の患者を数名抽出し、医師の記載内容やインフォームドコンセント記録など「カルテ監査チェックリスト」に基づき監査を行い、医師にフィードバックしており、質的監査の向上に取り組んでいる。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有) 無
<p>・所属職員：専従（ 5 ）名、専任（ ）名、兼任（ 8 ）名</p>	

うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 2 ）名

うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名

うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

(注) 報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

医療安全管理部は、医療の安全に必要な指導、安全対策の推進、患者の相談に関する業務を行う。

1. 医療法施行規則に基づく業務

ア. 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保管、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。

イ. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分なされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。

ウ. 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。

エ. 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。

オ. 医療安全に係る連絡調整に関すること。

カ. 高難度新規医療技術導入及び未承認新規医薬品等の使用の適否を決定する担当部門としての役割を担う。

キ. その他医療安全対策の推進に関すること。

2. 医療安全管理委員会で決定した方針に基づく業務

ア. 医療安全カンファレンスで用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全カンファレンスの庶務に関すること。

イ. 医療安全管理部小委員会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全管理部小委員会の庶務に関すること。

ウ. セーフティマネジャー会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他セーフティマネジャー会の庶務に関すること。

エ. 事例検討会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他事例検討会の庶務に関すること。

オ. 患者および家族からのご意見・ご要望相談（医療紛争を除く）の対応に関すること。

カ. 相談内容に応じた関係部署及び関係機関との連絡調整に関すること。

キ. その他医療安全管理部長が必要と認めた業務に関すること

・ H28 年 4 月から毎月手術時の血栓予防策実施状況、インフォームドコンセントの実施状況、輸血時の PDA 認証状況等についてモニタリングを行い、診療状況の把握に努めている。

・院内ラウンドを毎月実施し、職員の医療安全に関する意識を把握し、意識向上のための方策を検討している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

1. 診療科の長から高難度新規医療技術の提供の適否について申請を受理したときは、申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会に対し、当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求める。

2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等を決定し、申請を行った診療科の長に対し、その結果を適否結果通知書により通知する。

3. 当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認められるときは、診療録等の記載内容を確認する。

4. 高難度新規医療技術の提供が適正な手続きに基づいていたかについて、医療提供者の遵守状況の確認を行う。

5. 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び医療提供者の遵守状況について確認したときは、その内容を病院長に報告する。

7. 高難度新規医療技術提供の評価に関する資料、議事録及び遵守状況確認記録は確認の日から5年間保存する。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 無)
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 無)
- ・活動の主な内容：
 1. 担当部門の長は、診療部長から未承認新規医薬品等の使用の申請があったときは、当該申請の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対し、当該未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について意見を求める。
 2. 担当部門の長は、委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定し、申請のあった診療部長に対しその結果を通知する。
 3. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認める場合には診療録の記載内容を確認する。
 4. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されていたかについて、従業者の遵守状況の確認を行う。
 5. 未承認新規医薬品等の提供の適否等について決定した場合及び従業者の遵守状況について確認した場合は、その内容を病院長に報告する。
 6. 未承認新規医薬品等の評価に関する審査資料、議事録及び遵守状況確認記録は、確認の日から 5 年間保存しなければならない。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 370 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 124 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
診療科に対して、全死亡事例について「死亡・死産事例報告書」の医療安全管理部への提出を義務付けている。また、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したときは、特異事例として当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関して速やかな報告を求めている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況
・他の特定機能病院等への立入り（ <input checked="" type="radio"/> 有（病院名：愛知医科大学病院）・無） ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ <input checked="" type="radio"/> 有（病院名：愛知医科大学病院）・無） ・技術的助言の実施状況 訪問側の所見及び受入れ側の改善策を記載した相互ラウンド実施報告書を作成し、相互に内容を確認している。
⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・体制の確保状況 当該部署及び医療安全管理部で対応する。

⑫ 職員研修の実施状況
・研修の実施状況 別紙参照。

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 【医療安全管理者（専従薬剤師）】 ・日本病院機能評価機構 医療対話推進者養成セミナー（導入編、基礎編） 福岡県病院会 第157回看護研修会 【医療安全管理者（専従看護師）】 医療安全管理者養成講習会 九州厚生局 医療安全に関するワークショップ 国際医療リスクマネジメント学会医療安全基礎講座 2019 【医薬品安全管理責任者】 令和元年度国公立大学附属病院医療安全セミナー 九州厚生局 医療安全に関するワークショップ

(様式第 6-2)

【医療機器安全管理責任者】

令和元年度国公立大学附属病院医療安全セミナー

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

2019年度 医療安全・感染対策 全体教育

開催日	時間	内容	場所
第1回 4月18日(木)	17:00~18:00 (遅刻10分まで)	安全 「医療安全2019」 講師:坪井義夫先生(医療安全管理責任者) 感染 「感染制御2019」 講師:高田徹先生(感染制御部 部長) :橋本文代先生(感染対策担当管理者)	RI 講義棟
第2回 5月13日(月)	17:00~18:00 (遅刻10分まで)	安全 「インフォームド・コンセントについて」 講師:川崎弘昭先生(インフォームド・コンセント委員会委員長) 講師:中村伸理子先生(医療安全管理部) 「医療情報2019」 講師:志村英生先生(医療情報部長)	RI 講義棟
第3回 6月11日(火)	17:00~18:00 (遅刻10分まで)	安全 「医療ガス管理について」 講師:浜内和也先生(医療機器安全管理責任者、臨床工学センター主任) 「医療安全への取り組み ~病院機能評価に向けて~」 講師:鷺山厚司先生(医療安全管理者) 感染 「抗菌薬の取り扱い」 講師:戸川温先生(感染制御部)	RI 講義棟
第4回 7月9日(火)	17:00~17:30 (遅刻5分まで)	安全 「安全な輸血について」 講師:甲斐純美先生(看護部外来師長)	RI 講義棟
第5回 8月30日(金)	17:00~17:30 (遅刻5分まで)	安全 「医薬品の安全管理 ~病院機能評価の視点から~」 講師:兼重晋先生(医薬品安全管理責任者、薬剤部副部長)	RI 講義棟
第6回 10月31日(木)	17:00~18:00 (遅刻10分まで)	安全 「医療安全の向上のための患者とのコミュニケーション」 講師:吉本謙爾先生(聖マリア病院医療の質管理本部 医療メディエーター)	RI 講義棟
第7回 11月12日(火)	17:00~18:00 (遅刻10分まで)	安全 「院内暴力への対応について」 講師:福岡県早良警察署 生活安全課 防犯係 感染 「インフルエンザ対策」 講師:橋本文代先生(感染対策担当管理者)	RI 講義棟
第8回 12月18日(水)	17:00~18:00 (遅刻10分まで)	感染 「薬剤耐性菌時代における感染制御を考える」 講師:三嶋廣繁先生(愛知医科大学大学院医学研究科 臨床感染症学 教授)	RI 講義棟
第9回 1月14日(火)	17:00~18:00 (遅刻10分まで)	安全 「医療従事者が知っておくべき放射線の知識」 講師:長町茂樹先生(放射線部 教授) 「医療倫理について」 講師:川崎弘昭先生(精神神経科 診療部長)	RI 講義棟

院内教育は、安全と感染の教育をそれぞれ年2回受講することが義務づけられています。
テーマ予定内の「安全」、「感染」それぞれにつき、各1回の受講単位が付与されます。
皆様の積極的な参加をお願いいたします。
開催時間は、テーマ毎に17:00~17:30、17:30~18:00、17:00~18:00です。
遅刻は30分の院内教育の場合、5分。60分の院内教育の場合、10分まで受け付けます。

2019年度 DVD研修会

開催日	時間	内容	場所
第1回 10/7(月)~10/11(金)	終日	2019年4月~2019年8月開催分上映	臨床 小講堂
第2回 2/17(月)~2/21(金)	終日	2019年10月~2020年1月開催分上映	臨床 小講堂

2019年度 医療安全実践セミナー

	開催日	時間	対象 定員	単位	テーマ	場所
第1回	6月27日 (木)	17:00～18:00	全職員 40名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	3北
第2回	6月28日 (金)	17:00～18:00	全職員 50名	感染	「手指衛生 チームで遵守率UP! ～直接観察法を学ぼう～」 講師:宮崎里紗(感染管理認定看護師)	多目的室
第3回	7月11日 (木)	17:00～18:00	医師 看護師 30名	安全	「転倒予防 ～廃用性障害予防/安全な移動法～」 講師:藤田政臣先生(理学療法士) 竹下恵美(脳卒中リハビリテーション認定看護師)	リハビリテーション室
第4回	7月25日 (木)	17:00～18:00	全職員 40名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	3北
第5回	8月8日 (木)	17:00～18:00	薬剤部 40名	安全	「薬剤部 救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	3北
第6回	8月22日 (木)	17:00～18:00	全職員 40名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	3北
第7回	9月27日 (金)	17:00～18:00	医師 看護師 30名	安全	「安全な気管吸引をマスターしよう!(閉鎖式・開放式気管吸引)」 講師:宮崎里紗(感染管理認定看護師) 猿渡恵子 安倍朋子(集中ケア認定看護師)	3北
第8回	10月9日 (水)	17:00～18:00	リハビリ テーション 部 30名	安全	「リハビリテーション部 救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	3北
第9回	10月25日 (金)	17:00～18:00	医師 看護師 30名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	3北
第10回	11月28日 (木)	17:00～18:00	全職員 40名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	3北
第11回	12月3日 (火)	17:00～18:00	医師 看護師 40名	安全	「抗がん剤の正しい使用法」 講師:中尾明先生(呼吸器内科)	臨床小講堂
第12回	12月4日 (水)	17:00～18:00	医師 看護師 40名	感染	「N95マスクの正しい着用フィット(シール)テスト」 講師:宮崎里紗(感染管理認定看護師)	腫瘍センター ミーティング室
第13回	2月12日 (水)	17:00～18:00	歯科 5名	安全	「薬剤部 救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	3北

主催：医療安全管理部、感染制御部

規則第 7 条の 2 第 1 項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none">・ 基準の主な内容 福岡大学病院長選考規程（平成 31 年 1 月制定、4 月施行） 福岡大学病院長候補者選考会議規程（平成 31 年 1 月制定、4 月施行） 福岡大学病院長候補者選考実施細則（平成 31 年 1 月制定、4 月施行） 福岡大学病院長に求められる資質・能力について（選考基準） 医療法第十六条の三第 1 項各号に掲げる事項の実施その他の特定機能病院の管理及び運営に関する業務の遂行に関し必要な能力及び経験を有する者。・ 基準に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）・ 公表の方法 福岡大学病院公式HPにて公表を行い、公募している。

規則第 7 条の 3 第 1 項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）・ 公表の方法 福岡大学病院公式HPにて公表を行い、公募している。	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
大慈 弥裕之	副学長	○	福岡大学病院長候補者選考会議規程による 以下同様	有
朔 啓二郎	医学部長			有
姜 文源 田中 守	学長が指名する学部長 (文系、理系各 1 人)			有
竹下 盛重	医学研究科長			有
井上 亨	福岡大学病院長			有
立花 時弘	福岡大学病院事務長			有
中川 朋子	福岡大学病院看護部長			有
川浪 大治 松永 彰 平井 郁仁	福岡大学病院診療部長会のうちから 互選により選出された教授 3 人			有
赤司 浩一 荒瀬 泰子 尾辻 豊	九州大学病院長 外部有識者 産業医科大学病院長 (学長が委嘱する学外有識者 3 人)			無

規則第 9 条の 2 3 第 1 項及び第 2 項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>福岡大学病院診療部長会</p> <p>(1) 病院の診療、教育及び研究に関する事項</p> <p>(2) 病院運営に関する事項</p> <p>(3) その他病院長が必要と認めた事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>医局等、部署単位で所属長から回覧等により周知されている。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無 (有・<input checked="" type="checkbox"/>無)</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無 (有・<input checked="" type="checkbox"/>無)</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
岩崎 昭憲	○	医師	病院長
長谷川 傑		医師	副病院長
藤田 昌樹		医師	副病院長
鍋島 茂樹		医師	副病院長
中川 朋子		看護師	副病院長
岳 弘司		事務職員	事務長
高松 泰		医師	腫瘍・血液・感染症内科部長
川浪 大治		医師	内分泌・糖尿病内科部長
岩崎 昭憲(兼務)		医師	循環器内科部長
平井 郁仁		医師	消化器内科部長
升谷 耕介		医師	腎臓・膠原病内科部長
藤田 昌樹(兼務)		医師	呼吸器内科部長
坪井 義夫		医師	脳神経内科部長
川崎 弘詔		医師	精神神経科部長
廣瀬 伸一		医師	小児科部長
長谷川 傑(兼務)		医師	消化器外科部長
岩崎 昭憲(兼務)		医師	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科部長
山本 卓明		医師	整形外科部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容

福岡大学病院長職務権限規程

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

施設長である病院長をトップとし、副病院長と事務長とともに執行部を結成している。執行部で執り行われる病院経営戦略会議では事業計画が立案される。診療科ならびに診療各部、看護部、事務部は、病院の基本理念を理解し、執行部の運営方針に協力する。立案された事業計画は、経営に関しては企画運営検討委員会で検討、それ以外の事業については、それぞれの関連委員会にて審議され、病院の最高意思決定機関である診療部長会にて審議の上、承認される。承認された事業は、関連部署にて実施される。実施の結果はそれぞれの関連委員会委員長によって診療部長会にて報告される。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

なし

(令和 2 年度特定機能病院管理者研修に岩崎病院長、藤田副病院長が参加予定)

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況		有・無			
<p>・監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>1. 監査対象期間の医療安全管理者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務実績についてヒアリングと記録を用いて監査する。</p> <p>2. 医療安全管理部門の各委員会、カンファレンス、活動内容について当事者からのヒアリングと議事録及び実施記録を用いて監査する。</p> <p>3. 必要に応じ、病院長及び開設者に対し、医療に係る安全については是正措置を講ずるよう意見を表明する。</p> <p>4. 管理者は業務結果について病院ホームページに公表する。</p> <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・公表の方法：病院ホームページ</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
古賀和徳	産業医科大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
深川直美	産業医科大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
一木孝治	産業医科大学病院		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
坪井義夫	福岡大学病院		院内監査委員	有・無	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

福岡大学病院内部監査室 平成 18 年 4 月 1 日設置。

年に 1 度、計画を策定して実施している。

・ 専門部署の設置の有無 (有 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 無)

・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 <p>福岡大学学報、福岡大学病院診療部長会、福岡大学病院安全管理マニュアル</p>

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 【機関名】 日本医療機能評価機構 【時期】 令和2年2月7日付 認定継続	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 情報発信の方法、内容等の概要 近隣の地域に対する情報発信として、各種セミナーを開催している。 1つ目は、医療連携の促進・強化を目的として、福岡市医師会及び城南区医師会との共催で行う「福岡大学病院メディカルセミナー」と糸島医療圏の医療関係者を対象とした「糸島医師会・福大病院 地域連携学術講演会」である。このセミナーは、各診療科の診療技術や研究内容、病院として取り組んでいる医療体制等について、当院の医師が講演やパネルディスカッションを行うもので年6～7回開催している。 2つ目は、地域の一般市民を対象とした「学んで予防！《福大病院 健康セミナー》」である。 このセミナーは、城南区医師会及び早良区医師会、さらには城南区役所、城南保健所、城南区の各自治協議会・各公民館及び早良区役所、早良区保健福祉センター、早良区の各公民館に協力いただき、地域の方が知りたいと思っている「健康や病気の予防」をテーマに、当院の医師と城南区医師会推薦の医師との協同で2ヶ月に1回程度開催しており、各回200～300名の地域住民の参加	

がある。また、29年度からは早良区医師会にも協力いただくことで、対象地域を広げてより多くの方に聴講いただく機会を作っている。

3つ目は、地域がん診療拠点病院として、がん患者やそのご家族、そして一般市民を対象に「福岡大学病院がんセミナー」を開催している。このセミナーは、がん治療の最前線の情報や各種がんの診療・治療・手術等の診療技術に関すること、また、がん治療中の薬物療法や食事療法、治療中の社会生活に関することなど、がんについてあらゆる知識や情報を発信している。

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	(有)・無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>2科以上の診療科がセンターとして外来診療を行っている。</p> <p>「腎・泌尿器・膠原病センター」→腎臓・膠原病内科、腎泌尿器外科</p> <p>「消化器センター」→消化器内科、消化器外科</p> <p>「呼吸器センター」→呼吸器内科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科</p> <p>「女性診療センター」→産婦人科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科</p> <p>「皮膚科・形成外科・美容医療センター」→形成外科、皮膚科</p> <p>「ハートセンター」→循環器内科、心臓血管外科</p> <p>「小児医療センター」→小児科、小児外科</p> <p>「認知症疾患医療センター」→精神神経科、脳神経内科</p>	